

# 事業報告書 2025

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

## I. 法人の概要

|                        |   |
|------------------------|---|
| 基本情報                   | 1 |
| 建学の精神                  | 1 |
| 沿革                     | 2 |
| 設置する学校・学部・学科等          | 2 |
| 設置する学校・学部・学科等の学生・生徒の状況 | 3 |
| 役員の概要                  | 4 |
| 評議員の概要                 | 5 |
| 会計監査人の概要               | 6 |
| 理事選任機関の概要              | 6 |
| 教職員の概要                 | 7 |
| 施設等の状況                 | 8 |

## II. 事業の概要

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 教育の理念・目的／3つの方針                   | 9  |
| 〈2025年度事業報告〉                     |    |
| 1. 改革路線の継続                       | 10 |
| 2. 100周年記念事業                     | 11 |
| 3. 盤石な財政基盤の確立                    | 12 |
| 4. 教育研究改革                        | 12 |
| 5. グローバル・DE&I推進                  | 13 |
| 6. 産学官連携の推進                      | 13 |
| 7. 戦略的広報活動                       | 14 |
| 8. DXの推進                         | 15 |
| 9. 学生募集・女子学生の拡充                  | 15 |
| 10. キャリア教育                       | 16 |
| 11. 学生支援の充実強化                    | 17 |
| 12. 附属・併設学校の強化、<br>中高大連携と理系女子の育成 | 18 |
| 13. キャンパスや諸設備の整備                 | 19 |
| 14. リスクマネジメント体制の強化               | 20 |
| 15. 地域貢献・社会貢献                    | 21 |

## III. 財務の概要

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 2025年度 決算の概要                     | 22 |
| 貸借対照表                            | 22 |
| 事業活動収支計算書                        | 24 |
| 資金収支計算書                          | 26 |
| その他                              | 28 |
| 資産運用の状況                          | 28 |
| 学校債の状況                           | 28 |
| 寄付金の状況                           | 28 |
| 補助金の状況                           | 29 |
| 収益事業の状況                          | 30 |
| 経営状況の分析、経営上の成果と課題、<br>今後の方針・対応方策 | 31 |

## IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

|               |    |
|---------------|----|
| 関係する決議の概要     | 32 |
| 体制整備及び運用状況の概要 | 32 |

## V. 附属明細書

# I. 法人の概要

## 基本情報

法人の名称：学校法人芝浦工業大学  
主たる事務所：東京都江東区豊洲3-7-5  
電話番号：03-5859-7000  
FAX番号：03-5859-7001  
WEB：https://www.shibaura-it.ac.jp/

## 建学の精神

# 社会に学び、社会に貢献する 技術者の育成

芝浦工業大学の源は、1927(昭和2)年、有元史郎が創設した東京高等工商学校です。有元史郎が唱えたのは「現代文化の諸相を教材とし、社会的活動の意義を体得する教育」でした。この実学主義の教育により、実用的な知識と技術を併せ持ち技術立国を担う技術者、さらに高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた技術者の育成に取り組み、社会の進歩発展に貢献してきました。これからも芝浦工業大学は、日本だけでなく海外との交流を通じて広く世界に学び、国際社会に貢献する大学としてグローバルな教育・研究力を発揮し、社会の期待に応えていきます。

### 芝浦工業大学は2027年に創立100周年を迎えます

**100<sup>th</sup>**  
**芝浦工業大学**  
100th ANNIVERSARY  
Established 1927  
世界に学び、世界に貢献する

芝浦工業大学は、2027年に創立100周年を迎える。しかし、ものづくりの大学が、歴史をつくることで満足してはいけない。ここで満足したら、世界を満足させることはできないのだから。最先端の研究を。その社会実装を。問題解決に貢献できる技術者の育成を。建学の精神である「社会に学び、社会に貢献する」。その視野をさらに広げ、芝浦工業大学は、「世界に学び、世界に貢献する」ことを目指していく。2027年は、きっと、新未来元年になる。



創立者

有元 史郎

(1896—1938)

有元史郎は、1923(大正12)年、苦学の末に東京帝国大学(現 東京大学)工学部機械工学科を卒業。引き続き同大学経済学部に入學して経済学を学びました。向学心が強く、工学、経済学のほかにも、法学、文学、商学を修め、合わせて5つの学士号を取得しました。弱冠30歳、東京帝国大学の大学院生のときに東京高等工商学校を創設し、芝浦工業大学の礎を築きました。

## 沿革

### 1927 ▶ 昭和2年

東京府荏原郡大森町に東京高等工商学校設立（創立者 有元史郎）。その後、芝区（現港区）芝浦町に移転



東京高等工商学校 建築工学科1期生授業風景（1929年）

### 1943 ▶ 昭和18年

財団法人東京高等工学校を設立（3月）  
財団法人芝浦学園と名称変更（10月）



1931年頃 電気工学科電気実験

### 1949 ▶ 昭和24年

芝浦工業大学を設置、工学部機械工学科、土木工学科を開設

### 1950 ▶ 昭和25年

芝浦工業短期大学を設置（その後、1983（昭和58）年に廃止）

### 1951 ▶ 昭和26年

学校法人芝浦学園に組織変更

### 1953 ▶ 昭和28年

学校法人鉄道育英会を吸収合併。東京育英高等学校（現芝浦工業大学附属高等学校）の経営を継承

### 1962 ▶ 昭和37年

学校法人芝浦工業大学と名称変更

### 1963 ▶ 昭和38年

大学院工学研究科修士課程を開設。電気工学専攻（現電気電子情報工学専攻）、金属工学専攻（現材料工学専攻）、工業化学専攻（現応用化学専攻）を開設

### 1966 ▶ 昭和41年

埼玉県大宮市（現さいたま市）に大宮キャンパス竣工



1970年代後半 芝浦校舎正面

### 1980 ▶ 昭和55年

芝浦工業大学柏高等学校設置

### 1982 ▶ 昭和57年

芝浦工業大学高等学校を東京都板橋区に移転し、同時に中学校を設置

### 1991 ▶ 平成3年

システム工学部を開設、3学科を開設

### 1995 ▶ 平成7年

大学院工学研究科博士（後期）課程、地域環境システム専攻、機能制御システム専攻を開設

### 1997 ▶ 平成9年

先端工学研究機構を設置

### 1999 ▶ 平成11年

芝浦工業大学柏中学校を設置

### 2006 ▶ 平成18年

東京都江東区に豊洲キャンパス開校  
芝浦キャンパスは取り壊し、再開発計画に入る

### 2008 ▶ 平成20年

システム工学部に生命科学科開設  
工学部二部を廃止

### 2009 ▶ 平成21年

東京都港区に芝浦キャンパスを開校。デザイン工学部デザイン工学科を開設。システム工学部をシステム理工学部と名称変更し、併せて数理科学科開設

### 2011 ▶ 平成23年

大学院工学研究科を理工学研究科と名称変更し、システム理工学専攻を開設

### 2013 ▶ 平成25年

大宮キャンパスに国際学生寮を開設

### 2014 ▶ 平成26年

文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択

### 2017 ▶ 平成29年

デザイン工学部デザイン工学科を再編  
大学院理工学研究科に国際理工学専攻を設置  
建築学部建築学科を開設  
芝浦工業大学附属高等学校を江東区豊洲に移転し、新校舎を開校  
併せて芝浦工業大学附属高等学校に名称変更

### 2020 ▶ 令和2年

工学部に先進国際課程を開設

### 2021 ▶ 令和3年

大学院理工学研究科に社会基盤学専攻、建築学専攻開設

### 2022 ▶ 令和4年

大宮キャンパスに駅伝部専用学生寮「白亜寮」を開設  
豊洲キャンパスに新校舎「本部棟」を開設

### 2024 ▶ 令和6年

工学部を「課程制」から「課程制」へ移行  
熱海セミナーハウスを設置  
豊洲キャンパス内に有元史郎 MEMORIAL CORNER を設置



有元家の偉業をたたえ設置された展示施設「有元史郎MEMORIAL CORNER」

## 設置する学校・学部・学科等

2025年度

| 設置する学校       | 学部・学科等         | 開校年         | 所在地   |
|--------------|----------------|-------------|---|
| 芝浦工業大学       | 工学部            | 1949（昭和24）年 | （豊洲キャンパス）<br>〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5              |
|              | システム理工学部       | 1991（平成3）年  | （大宮キャンパス）<br>〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307           |
|              | デザイン工学部        | 2009（平成21）年 | （豊洲キャンパス）<br>〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5              |
|              | 建築学部           | 2017（平成29）年 | （豊洲キャンパス）<br>〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5              |
| 芝浦工業大学大学院    | 理工学研究科修士課程     | 1963（昭和38）年 | （豊洲キャンパス）<br>〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5              |
|              | 理工学研究科博士（後期）課程 | 1995（平成7）年  | （豊洲キャンパス）<br>〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5              |
| 芝浦工業大学附属高等学校 | 全日制（普通科）       | 1948（昭和23）年 | （芝浦工業大学附属中学高等学校 新豊洲校地）<br>〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7 |
| 芝浦工業大学柏高等学校  | 全日制（普通科）       | 1980（昭和55）年 | （芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地）<br>〒277-0033 千葉県柏市増尾700       |
| 芝浦工業大学附属中学校  |                | 1982（昭和57）年 | （芝浦工業大学附属中学高等学校 新豊洲校地）<br>〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7 |
| 芝浦工業大学柏中学校   |                | 1999（平成11）年 | （芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地）<br>〒277-0033 千葉県柏市増尾700       |

## 設置する学校・学部・学科等の学生・生徒の状況

(2025年5月1日現在)

## 大学

(単位：人)

| 学部       | 学科・課程      | 入学定員数 | 入学者数  | 総定員数  | 在籍数   |
|----------|------------|-------|-------|-------|-------|
| 工学部*     | 機械工学課程     | 228   | 279   | 456   | 495   |
|          | 物質化学課程     | 208   | 233   | 416   | 444   |
|          | 電気電子工学課程   | 208   | 256   | 416   | 459   |
|          | 情報・通信工学課程  | 218   | 246   | 436   | 458   |
|          | 土木工学課程     | 104   | 118   | 208   | 219   |
|          | 先進国際課程     | 9     | 12    | 36    | 35    |
|          | 機械工学科      | (114) | —     | 228   | 239   |
|          | 機械機能工学科    | (114) | —     | 228   | 275   |
|          | 材料工学科      | (104) | —     | 208   | 233   |
|          | 応用化学科      | (104) | —     | 208   | 231   |
|          | 電気工学科      | (104) | —     | 208   | 220   |
|          | 情報通信工学科    | (104) | —     | 208   | 235   |
|          | 電子工学科      | (104) | —     | 208   | 230   |
|          | 土木工学科      | (104) | —     | 208   | 214   |
| 情報工学科    | (114)      | —     | 228   | 225   |       |
| システム理工学部 | 電子情報システム学科 | 115   | 118   | 460   | 463   |
|          | 機械制御システム学科 | 90    | 89    | 360   | 361   |
|          | 環境システム学科   | 90    | 85    | 360   | 373   |
|          | 生命科学科      | 115   | 114   | 460   | 459   |
|          | 数理科学科      | 75    | 88    | 300   | 322   |
| デザイン工学部  | デザイン工学科    | 160   | 182   | 640   | 707   |
| 建築学部     | 建築学科       | 240   | 247   | 960   | 1,042 |
| 合計       |            | 1,860 | 2,067 | 7,440 | 7,939 |

※2024年4月から課程制に改組。先進国際課程を除く学科・課程の総定員数は学年進行に伴って計上する。2025年度は課程制2学年分、学科制2学年分。

※先進国際課程は2025年秋入学の入学者数です。

## 大学院

(単位：人)

| 理工学研究科   | 専攻         | 入学定員数 | 入学者数 | 総定員数  | 在籍数   |
|----------|------------|-------|------|-------|-------|
| 修士課程     | 電気電子情報工学専攻 | 200   | 229  | 310   | 457   |
|          | 材料工学専攻     | 50    | 56   | 90    | 112   |
|          | 応用化学専攻     | 40    | 36   | 70    | 80    |
|          | 機械工学専攻     | 140   | 152  | 225   | 302   |
|          | システム理工学専攻  | 150   | 199  | 225   | 372   |
|          | 国際理工学専攻    | 10    | 19   | 20    | 41    |
|          | 社会基盤学専攻    | 40    | 27   | 65    | 72    |
|          | 建築学専攻      | 170   | 181  | 280   | 375   |
| 博士(後期)課程 | 地域環境システム専攻 | 15    | 15   | 39    | 54    |
|          | 機能制御システム専攻 | 18    | 11   | 48    | 63    |
| 合計       |            | 833   | 925  | 1,372 | 1,928 |

## 中学校・高等学校

(単位：人)

| 中学校・高等学校     | 入学定員数 | 入学者数 | 総定員数  | 在籍数   |
|--------------|-------|------|-------|-------|
| 芝浦工業大学附属中学校  | 160   | 168  | 480   | 498   |
| 芝浦工業大学柏中学校   | 180   | 186  | 540   | 560   |
| 芝浦工業大学附属高等学校 | 172   | 220  | 516   | 635   |
| 芝浦工業大学柏高等学校  | 296   | 312  | 888   | 900   |
| 合計           | 808   | 886  | 2,424 | 2,593 |

収容定員充足率(毎年度5月1日現在。但し秋入学を実施しているIGPは毎年度10月1日現在の数字で計算。)

| 学校名    | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 芝浦工業大学 | 1.07   | 1.07   | 1.05   | 1.05   | 1.07   |

## 役員概要

(2026年3月31日現在)

定員数 理事12人 監事3人

| 区分           | 氏名    | 就任年月日      | 常勤/非常勤の別 | 業務執行/非業務執行の別 | 担当職務  | 外部理事等 | 主な現職等                 |
|--------------|-------|------------|----------|--------------|---|-------|-----------------------|
| 理事長          | 鈴見 健夫 | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         |   | 外部理事  |                       |
| 専務理事<br>(学長) | 山田 純  | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | 学務統括・課外活動活性化担当  |       |                       |
| 常務理事         | 野口 一也 | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | 財務担当・学事担当   |       |                       |
| 常務理事         | 丁 龍鎮  | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | 事務局長、監査担当、<br>100周年記念事業担当、<br>危機管理担当、<br>入試・広報・高大接続担当 |       |                       |
| 理事           | 西川 宏之 | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | 研究推進担当、産学官民連携・<br>オープンイノベーション担当                       |       |                       |
| 理事           | 中根 正義 | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | 併設中学・高等学校・中高大<br>連携担当                                 |       |                       |
| 理事           | 澤田 英行 | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | キャンパス整備担当、<br>SDGs推進担当                                |       |                       |
| 理事           | 祖父江一郎 | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | 総務担当、地域連携担当、<br>DX担当                                  |       |                       |
| 理事           | 久保ひとみ | 2025年5月29日 | 常勤       | 業務執行         | キャリアサポート・就職担当、<br>DE&I推進担当                            |       |                       |
| 理事           | 木村 雅一 | 2025年5月29日 | 非常勤      | 業務執行         | グローバル推進担当、<br>BCP担当                                   | 外部理事  | 日建設計タイランド<br>代表取締役社長  |
| 理事           | 加藤善次郎 | 2025年5月29日 | 非常勤      | 業務執行         | 校友会後援会担当、<br>募金担当                                     | 外部理事  | 株式会社日本環境設計<br>代表取締役会長 |
| 監事           | 大江 功一 | 2025年5月29日 | 常勤       |              |   |       |                       |
| 監事           | 飯島 敏春 | 2025年5月29日 | 常勤       |              |   |       |                       |
| 監事           | 越智 文夫 | 2025年5月29日 | 非常勤      |              |   |       |                       |

## 評議員の概要

(2026年3月31日現在)

評議員定数 30人

| 区分  | 氏名     | 就任年月日      | 主な現職等   |
|-----|--------|------------|---|
| 評議員 | 刈谷 義治  | 2023年11月1日 | 芝浦工業大学 副学長 工学部長(物質化学課程 環境・物質工学コース)                      |
| 評議員 | 磐田 朋子  | 2023年11月1日 | 芝浦工業大学 副学長(システム理工学部 環境システム学科)                           |
| 評議員 | 中村 仁   | 2025年7月23日 | 芝浦工業大学 副学長(システム理工学部 環境システム学科)                           |
| 評議員 | 新井 剛   | 2023年11月1日 | 芝浦工業大学 工学部 教授(物質化学課程 環境・物質工学コース)                        |
| 評議員 | 山崎 憲一  | 2023年11月1日 | 芝浦工業大学 デザイン工学部長(デザイン工学部 デザイン工学科)                        |
| 評議員 | 秋元 孝之  | 2023年11月1日 | 芝浦工業大学 建築学部長(建築学部 建築学科)                                 |
| 評議員 | 柴田 邦夫  | 2023年11月1日 | 芝浦工業大学 附属中学高等学校 校長                                      |
| 評議員 | 三輪 剛史  | 2023年11月1日 | 芝浦工業大学 柏中学高等学校 教頭                                       |
| 評議員 | 三船 毅明  | 2025年7月23日 | 学校法人芝浦工業大学 学事本部豊洲学事部長                                   |
| 評議員 | 白石 美知子 | 2025年7月23日 | 学校法人芝浦工業大学 学事本部大学院学事部長                                  |
| 評議員 | 文倉 辰夫  | 2023年11月1日 | 株式会社HEXEL Works 取締役副社長執行役員                              |
| 評議員 | 小川 博司  | 2023年11月1日 | 株式会社カズサッポロ 取締役会長  |
| 評議員 | 鴻 義久   | 2023年11月1日 | 株式会社ハリマビシステム 代表取締役会長                                    |
| 評議員 | 西 正次   | 2023年11月1日 | 株式会社丸西組 代表取締役会長   |
| 評議員 | 内山 毅   | 2023年11月1日 | キャノン電子テクノロジー株式会社 代表取締役社長                                |
| 評議員 | 村木 健一  | 2023年11月1日 | ヤマハ発動機株式会社 取締役 上席執行役員 製造・調達管掌(兼)<br>ランドモビリティ事業本部SPV事業部長 |
| 評議員 | 山崎 晋吾  | 2023年11月1日 | 製鉄給食株式会社 代表取締役社長  |
| 評議員 | 猪坂 哲   | 2023年11月1日 | 株式会社理経 代表取締役社長  |
| 評議員 | 津田 端孝  | 2025年7月23日 | 須賀工業株式会社 代表取締役会長  |
| 評議員 | 小又 哲夫  | 2025年7月23日 | SWCC株式会社 代表取締役 CEO社長執行役員                                |
| 評議員 | 木村 増夫  | 2023年11月1日 | 学校法人上智学院 理事   |
| 評議員 | 小林 浩   | 2023年11月1日 | リクルート進学総研 所長<br>リクルート「カレッジマネジメント」編集長                    |
| 評議員 | 潮江 宏三  | 2023年11月1日 | 京都市立芸術大学 名誉教授   |
| 評議員 | 町田 裕紀  | 2023年11月1日 | 西村・町田法律事務所 弁護士  |
| 評議員 | 亀井 信明  | 2023年11月1日 | 株式会社高等教育総合研究所 会長  |
| 評議員 | 濱田 正久  | 2023年11月1日 | 株式会社クリプトン 代表取締役会長                                       |
| 評議員 | 藤原 未来子 | 2023年11月1日 | 一般社団法人日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会 事務局長                      |
| 評議員 | 西川 史子  | 2023年11月1日 | 山脇学園中学校・高等学校 校長   |
| 評議員 | 堀木 エリ子 | 2023年11月1日 | 株式会社堀木エリ子アンドアソシエイツ 代表取締役                                |
| 評議員 | 山田 剛志  | 2023年11月1日 | 株式会社IHI 顧問  |

---

---

## 会計監査人の概要

---

---

- ・ 会計監査人：1名(定員1名)
- ・ 名称：東陽監査法人
- ・ 就任年月日：令和7年5月28日
- ・ 責任免除に関する決議等：  
私立学校法第91条または第92条の規定に基づく責任免除に関する決議は行っていない。
- ・ 責任限定契約：  
本法人は私立学校法第94条に規定する会計監査人の責任限定契約については寄附行為で定めていない。
- ・ 会計監査人賠償責任保険契約：  
本法人は私立学校法第97条に規定する会計監査人賠償責任保険契約は締結していない。

---

---

## 理事選任機関の概要

---

---

理事選任機関である理事推薦委員会の構成は次のとおりとし、理事長が委嘱する。

- ①理事長、②学長、③理事会が互選した理事2名、④卒業生評議員が互選した評議員1名、⑤教職員評議員が互選した評議員1名、⑥学識経験者評議員が互選した評議員1名

## 教職員の概要

(2025年5月1日現在)

## 1. 大学・大学院教員数

(単位：人)

| 所属           | 資格              | 専任  |     |    |    |    | 合計  | 非常勤 | 合計  |
|--------------|-----------------|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|
|              |                 | 教授  | 准教授 | 助教 | 講師 | 教諭 |     |     |     |
|              | 学長              | 1   |     |    |    |    | 1   |     | 1   |
|              | 副学長             | 3   |     |    |    |    | 3   |     | 3   |
| 工学部          | 機械工学課程          | 26  | 4   | 1  | 0  | 0  | 31  | 21  | 52  |
|              | 物質化学課程          | 24  | 5   | 0  | 0  | 0  | 29  | 13  | 42  |
|              | 電気電子工学課程        | 22  | 10  | 1  | 0  | 0  | 33  | 14  | 47  |
|              | 情報・通信工学課程       | 22  | 6   | 2  | 0  | 0  | 30  | 13  | 43  |
|              | 土木工学課程          | 15  | 3   | 0  | 0  | 0  | 18  | 7   | 25  |
|              | 先進国際課程          | 7   | 12  | 0  | 0  | 0  | 19  | 0   | 19  |
|              | 共通学群            | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0   | 107 | 107 |
| システム<br>理工学部 | 電子情報システム学科      | 13  | 5   | 0  | 0  | 0  | 18  | 14  | 32  |
|              | 機械制御システム学科      | 11  | 2   | 0  | 0  | 0  | 13  | 11  | 24  |
|              | 環境システム学科        | 15  | 1   | 0  | 0  | 0  | 16  | 36  | 52  |
|              | 生命科学科           | 11  | 6   | 0  | 0  | 0  | 17  | 29  | 46  |
|              | 数理科学科           | 9   | 3   | 1  | 0  | 0  | 13  | 12  | 25  |
| デザイン工学部      | デザイン工学科         | 18  | 4   | 0  | 0  | 0  | 22  | 57  | 79  |
| 建築学部         | 建築学科            | 29  | 5   | 0  | 1  | 0  | 35  | 112 | 147 |
| 大学院          | 大学院             | 0   | 1   | 0  | 0  | 0  | 1   | 21  | 22  |
| その他          | 教育イノベーション推進センター | 4   | 6   | 0  | 1  | 0  | 11  | 6   | 17  |
|              | SIT総合研究所        | 6   | 3   | 7  | 0  | 0  | 16  | 0   | 16  |
|              | 複合領域産学官民連携推進本部  | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   |
|              | 学長室             | 4   | 0   | 0  | 0  | 0  | 4   | 0   | 4   |
| 合計           |                 | 240 | 76  | 12 | 2  | 0  | 330 | 473 | 803 |

※専任者には、特別任用教員、プロジェクト研究教員、特別招聘教授、シニア教員(いずれも有期雇用者)を含んでいます。  
 ※学長は学長室・教授、副学長は物質化学課程・教授1名、環境システム学科・教授2名。当該学科からは除外しています。

## 2. 併設中学校・高等学校教員数

(単位：人)

| 所属   | 資格           | 教諭* | 非常勤* | 計   |
|------|--------------|-----|------|-----|
| 中学校  | 芝浦工業大学附属中学校  | 28  | 11   | 39  |
|      | 芝浦工業大学柏中学校   | 32  | 10   | 42  |
| 高等学校 | 芝浦工業大学附属高等学校 | 40  | 11   | 51  |
|      | 芝浦工業大学柏高等学校  | 44  | 27   | 71  |
| 合計   |              | 144 | 59   | 203 |

## 3. 職員数

(単位：人)

| 所属  | 資格 | 専任職員* | 非専任   |       |      | 計   | 派遣職員 |
|-----|----|-------|-------|-------|------|-----|------|
|     |    |       | 奨励研究員 | TA・LF | 臨時職員 |     |      |
| 豊洲  |    | 150   | 7     | 323   | 111  | 591 | 77   |
| 大宮  |    | 45    | 2     | 128   | 62   | 237 | 25   |
| 新豊洲 |    | 5     | 0     | 0     | 14   | 19  | 9    |
| 柏   |    | 5     | 0     | 0     | 8    | 13  | 10   |
| 合計  |    | 205   | 9     | 451   | 195  | 860 | 121  |

※専任者には、特定職員(有期雇用者)を含んでいます。  
 ※奨励研究員・TA・LFは、研究指導者(PI)が所属する学部等に所属しています。

## 施設等の状況

(2026年3月31日現在)

### 1. 現有施設の所在地等の説明

| 所在地                           | 施設等     | 面積等<br>(㎡) | 取得価額<br>(千円) | 帳簿価額<br>(千円) | 摘要   |
|-------------------------------|---------|------------|--------------|--------------|--|
| 東京都江東区豊洲3丁目7番5号               | 校地      | 30,000.00  | 8,821,152    | 8,821,152    | 工学部3・4年、デザイン工学部3・4年、建築学部、大学院理工学研究科が使用しています。                  |
|                               | 校舎他     | 101,761.93 | 47,473,733   | 33,368,654   |  |
| 埼玉県さいたま市見沼区<br>大字深作307番地      | 校地他     | 170,810.94 | 1,901,807    | 1,901,807    | 工学部1・2年、デザイン工学部1・2年、システム理工学部、大学院理工学研究科が使用しています。              |
|                               | 校舎他     | 86,680.93  | 33,950,773   | 20,165,478   |  |
| 埼玉県さいたま市見沼区<br>東大宮2丁目4番3号     | その他(借室) | -          | 8,143        | 2,922        | 男子学生寮として建物一括借用(敷地1,636.00㎡、建物2,388.45㎡)です。本学資産は追加した付属設備部分です。 |
| 千葉県柏市増尾700番地                  | 校地      | 44,843.85  | 1,227,790    | 1,227,790    | 柏中学高等学校が使用しています。7,895.83㎡の借地面積を含んでいません。                      |
|                               | 校舎他     | 15,816.72  | 3,914,925    | 1,354,445    |  |
| 東京都江東区豊洲6丁目2番7号               | 校地      | 14,499.03  | 6,228,249    | 6,228,249    | 附属中学高等学校が使用しています。  |
|                               | 校舎他     | 18,087.80  | 6,463,329    | 4,556,116    |  |
| 静岡県熱海市咲見町9丁目18番               | 校地      | 1,192.90   | 241,073      | 241,073      | セミナーハウスとして使用しています。校地のうち13.1㎡は持分所有です。                         |
|                               | その他     | 2,702.62   | 647,581      | 581,087      |  |
| 埼玉県さいたま市西区<br>大字二ツ宮字岸ノ町113番地1 | その他用地   | 124.50     | 8,684        | 8,684        | 運動場組合から脱退後も所有しています。表示面積は持分である地積×1/12です。                      |
|                               | その他     | 59.61      | 10,907       | 4,050        |  |
| 東京都港区芝浦3丁目9番14号               | 事業用敷地   | 2,624.00   | 395,251      | 395,251      | 収益事業として全棟貸しを行っています。  |
|                               | 事業用建物   | 12,491.62  | 3,107,633    | 2,638,109    |  |

### 2. 2025(令和7)年度の主な施設の取得又は処分及び進捗状況

- 1) 豊洲キャンパス：2028年度に予定されているデザイン工学部の定員増と豊洲キャンパスへの一貫化に向け、本部棟12階と13階の改修工事を実施しました。また、メーカー保証が切れたことから研究棟サーバールームのUPS設備を更新しました。
- 2) 大宮キャンパス：再整備プロジェクトの一環として、延床面積21,720㎡、地上7階建ての鉄筋コンクリート造の新棟が完成しました。また、新棟の完成に伴い、6号館の全面改修を行います。体育館は竣工後60年を迎え、老朽化が激しいことから解体をし、跡地に食堂棟・購買棟を建設する予定です。設備面では大学会館の空調機、全熱交換機の更新を行いました。
- 3) 柏中学高等学校：老朽化に伴い管理棟のGHPを更新しました。
- 4) 附属中学高等学校：グラウンドの人工芝が滑りやすくなった事から、張替えを行いました。
- 5) 熱海セミナーハウス：老朽化に伴い温水ヒーター更新を行いました。

### 3. その他保有資産(図書、教具・校具及び備品)の説明

#### 1) 図書

| 区分   | 冊数      |        |         | 価額(円)         |
|------|---------|--------|---------|---------------|
|      | 内国書(冊)  | 外国書(冊) | 計(冊)    |               |
| 図書   | 279,696 | 13,776 | 293,472 | 1,171,730,611 |
| 学術雑誌 | 14,080  | 9,230  | 23,310  | 36,114,117    |
| 計    | 293,776 | 23,006 | 316,782 | 1,207,844,728 |

#### 2) 教具・校具及び備品

| 名称又は種類              | 数量(点)  | 価額(円)         |
|---------------------|--------|---------------|
| 教育研究用機器備品(教具・校具・備品) | 68,328 | 5,353,178,622 |
| 管理用機器備品(教具・校具・備品)   | 1,026  | 451,407,806   |
| 計                   | 69,354 | 5,804,586,428 |

## Ⅱ．事業の概要

### 教育の理念・目的／3つの方針

#### 1.教育の理念

##### 世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成

建学の精神を継承し続けるべく「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成」を教育の理念として、世界で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

#### 2.目的

学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。

#### 3.3つの方針

##### ■ 卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー

芝浦工業大学は、理工学の基礎知識及び幅広い専門分野の知識を活用して、持続型社会の実現のために世界の諸問題を解決できるとともに、建学の精神に謳われる社会に貢献する理工系人材にふさわしい以下の能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

- ・世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工系人材として行動できる。
- ・問題を特定し、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、社会・経済的制約条件を踏まえ、基礎科学と専門知識を運用し、問題を解決できる。
- ・関係する人々とのコミュニケーションを図り、チームで仕事ができる。

##### ■ 教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー

芝浦工業大学は、学位授与の方針に掲げる知識・スキル・能力・態度を修得させるため、講義、演習、実験、実習により体系的にカリキュラムを編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、学修・教育到達目標を達成します。

##### ■ 入学者受け入れの方針 アドミッション・ポリシー

芝浦工業大学へ入学を志望する受験生は、本学の建学の精神と以下に挙げる「求める人物像」、各学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育及び研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。

本学が求める人物像を以下に示します。

- ・本学での学修、研究を強く志望し、本学で自己成長・自己実現を成そうと志望する人
- ・数学及び自然科学(物理学、化学、生物学などの科目)の基礎を学び、理工学と科学技術に対して強い興味関心を持ち、将来この学問を通じて我が国と世界の持続的発展に貢献しようという意思を持つ人
- ・大学において幅広い教養と経験、さらにコミュニケーション能力を身につけ、世界が多様であることを意識しながら市民社会の一員としての責務を自覚し、人類の進歩と地球環境の保全に尽くすとの気概を持つ人

上記に賛同し、本学への入学を志望する人は、高等学校等において以下の能力等を身につけておくことが望まれます。

- (1) 高等学校等の課程で学ぶ知識・技能(特に外国語、数学、理科)
  - (2) 思考力・判断力・表現力等の能力
  - (3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
- ・一般選抜の前期日程、全学統一日程、後期日程では、(1)及び(2)を評価します。
  - ・一般選抜の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の成績により(1)及び(2)を評価します。
  - ・総合型選抜では、記述試験や実技試験、ならびに外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。
  - ・学校推薦型選抜では、調査書や外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。

---

---

## 2025年度事業報告

---

---

### 1. 改革路線の継続

熾烈な大学間競争を勝ち抜き、中長期的な大目標を実現するためには、迅速な意思決定により、他大学に勝るスピードと戦略で改革を実行することが不可欠です。こうした考えのもと、学校法人芝浦工業大学(以下「本学」)のガバナンス改革では、私立学校法に基づき、理事会が最終的な権限と責任を担う最高意思決定機関であることを明確化しております。また、設置学校の中心である大学において学長のリーダーシップを確立することを目的に、教職員による選挙方式から「学長候補者選考委員会方式」へと改めております。この方式では、学長候補者選考委員会が学長候補者を選考し、理事会において決定いたします。また、理事および評議員の選任についても「選考委員会方式」を導入しております。

2021年4月1日に就任し、2024年4月1日に再任された山田純学長につきましても、「学長候補者選考委員会方式」により決定しております。2025年5月29日に発足した現理事会は、「学校法人芝浦工業大学理事選考等実施細則」に基づき、理事推薦委員会が答申した候補者を推薦し、理事会において決定したものです。また、私立大学にはガバナンス・コードの策定および遵守状況の公表が求められており、本法人は2025年9月に遵守状況を公表しております。策定されたガバナンス・コードについては、すべての項目において遵守されている状況です。さらに、本学は創立100周年を間近に控えており、改革を一層推進し、学内外へのプレゼンスを高めるため、さらなるガバナンス改革の必要性が高まっております。また、令和7年度に施行された新私立学校法に対応した寄附行為の改定を滞りなく行うため、「ガバナンス改革検討委員会」を設置し、検討を進めたくうえで、文部科学省へ寄附行為変更認可申請を行いました。

#### ■ 理事会、監事会議等

2025年4月に施行された改正私立学校法を踏まえ、同年5月29日に新たな理事会体制が発足しました。理事会は、鈴木理事長および職務上理事である山田学長を含む12名で構成されています。また、監事は常勤2名、非常勤1名の計3名体制となっています。

理事長の下、学長、理事会、監事会議が一体となった連携体制を構築することで、大学改革を迅速かつ適切に推進する環境を整備しています。特に、代表業務執行理事を常務理事の中から指名するとともに、各理事を担当業務を持つ業務執行理事として位置づけ、それぞれが所管業務の進捗を責任をもって管理する体制を確立しています。

この体制のもと、2025年度においても教職学協働によるスピーディな改革を推進してまいりました。さらに、改正私立学校法への対応を通じて、本学のガバナンス改革を一層推進しています。

#### ■ 働き方改革への対応

2019年4月1日より、働き方改革関連法が順次施行されました。本法人では、2020年4月から大学教員に対し専門業務型裁量労働制を導入しております。また、併設校教諭については、2021年7月より年間変形労働制を導入いたしました。さらに、併設校においては、業務時間のさらなる軽減を目的として、2023年11月より部活動外部指導員を導入しております。本取り組みについては、その効果を検証しながら外部指導員の拡充を検討し、併設校教員の業務負担軽減を図ってまいります。また、2023年8月には企業主導型ベビーシッター利用者支援事業を活用するための規程を制定し、特に教育職員が教育・研究に専念できる環境整備を進めております。事務職員の在宅勤務については、政府および行政機関の指導を踏まえ暫定的に実施してまいりましたが、2022年7月に在宅勤務に関する規程を制定し、正式な制度として運用を開始いたしました。本規程は、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進および業務の効率化を目的とするものです。さらに、申請手続および運用基準の明確化を図るため、2024年1月に規程および要領の一部改正を行い、施行しております。加えて、2024年度からは事務職員に完全週休二日制を導入し、職員の心身の健康維持および仕事と家庭の両立が図りやすい職場環境の整備を進めております。また、2026年度より、出生支援を行うため、出生支援休暇に関する規程を制定し、同時に未消化年休傷病積立制度取扱要領を改定し不妊治療に活用できるよう、2025年度中に規程を整備しました。

#### ■ 教員人事評価制度の導入

教育職員の人事評価制度につきましても、教育職員人事評価制度検討準備委員会において、評価結果が処遇に反映される制度の構築を目指し、答申案を取りまとめました。この答申をもとに、大学教員を対象とした人事評価項目および評価方法の詳細設計を行い、納得性の高い制度の構築に向けて検討を重ねてまいりました。

その結果、2023年度より試行運用を開始し、2024年度から本格運用を開始しております。2025年度より、教員業績評価システムと教員人事評価システムを統合し、前年度の振り返りと今年度の目標を、人事評価を確認しながら登録できるよう改善をしました。

## ■ 研修体系の改善

2025年度は、研修体系の更なる拡充とともに、研修情報の基盤整備に取り組みました。Notionを活用し、研修内容・各種制度の一覧化を行い、情報の随時更新が可能な環境を整備し運用を開始しました。これにより、職員が必要な研修情報に迅速にアクセスできる体制を構築しました。語学力向上支援では2024年度に導入したTOEIC IP (L&R)に加え、話す力・書く力を測定するTOEIC IP (S&W)を新たに導入し、職員の英語力を多角的に把握・育成できる体制を整えました。外部研修では、私大連オンデマンド研修について、職員からの希望に応える形で受講枠を拡大し対応しました。新規入職職員向けの導入研修では、熱海セミナーハウスにおいて外部研修講師を招いた合宿形式の研修を実施しました。新卒・中途入職職員を対象とし、年代を超えた交流を通じて相互理解を深める機会としました。

## 2. 100周年記念事業

2027年に創立100周年を迎える芝浦工業大学では、「理工系私学のトップランナー」という大目標に向けて、建学の原点に立ち返り、社会の要請に応えた教育の質のさらなる向上を目指し全学の求心力を高め、新たな挑戦に取り組んで参ります。

### ■ 将来ビジョン検討委員会における検討

芝浦工業大学は、経営ビジョン「我が国の理工系私学としてトップの社会的評価を得る」に向けたブランディング戦略及び学生満足度No.1を目指すことを目標としています。そのため本学の発展構想及び各キャンパスの価値最大化などにより経営資源の活用を図り、将来構想(将来ビジョン)を検討することを目的に2020年9月から「将来ビジョン検討委員会」を設置しテーマごとに検討を進めています。2025年度は主に「中長期計画策定」をテーマに、創立100周年を迎える2027年を見据えて2016年に宣言したCentennial SIT Actionに続く長期ビジョンの検討を各分科会で行いました。創立100周年を迎える来年度には「アジア工科大学トップ10」と「学生満足度No.1」の社会的評価を得るとともに盤石な財務基盤の確立を目標としています。

### ■ 芝浦工業大学創立100周年記念事業「駅伝プロジェクト」

芝浦工業大学創立100周年に向けた記念事業の一環として、2018年度から始動した「駅伝プロジェクト」を2025年度も引き続き推進いたしました。本プロジェクトは、我が国の国民的行事とも言える東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)への挑戦を通じ、芝浦工業大学の知名度やブランド力の向上を図るとともに、文武両道の逞しい理工学人材輩出を目的としています。2025年4月には監督・コーチ陣を刷新し、新たに部員9人が入学し、駅伝部専用寮である白垂寮に入寮、勉学と練習の両立を図る体制の強化を進めました。第102回箱根駅伝予選会では、芝浦工業大学駅伝部が過去最高の18位(42チームエントリー)を記録し、個人では横尾皓さん(環境システム学科4年)が第102回箱根駅伝の関東学生連合チームで復路8区(平塚～戸塚 21.4km)に出走し、本学史上4人目となる箱根ランナーが誕生しました。来年度も引き続き全学的な応援体制の構築に努め、創立100周年の2027年にはチームとしての箱根駅伝本戦出場を目指してまいります。



第102回箱根駅伝を力走する横尾選手

### ■ 寄付金戦略及びネーミングライツ事業

2021年度に開始した返礼品付き寄付制度は着実に定着しており、2025年度においても、卒業生企業や関わりのある企業のご協力のもと、新たな返礼品の拡充を図りました。また、2023年度より開始した豊洲キャンパス大講義室ネームプレート募金につきましても、多くのご協力を賜り、これまでに約140名のお申し込みをいただきました。

さらに、東京箱根間往復大学駅伝の本選出場を目指す駅伝部の活動支援を目的とした、企業とのスポンサー契約を締結しました。駅伝部では、選手のメディカルケアやトレーニング設備等に費用を要することから、本契約による収入をこれらの充実に活用してまい

ります。

近年では、遺贈によるご寄付に関するお申し込みやご相談も寄せられており、今後は、こうしたご意向に適切に対応できるよう、受入体制の整備及び周知を進めてまいります。

### 3. 盤石な財政基盤の確立

芝浦工業大学が永続的かつ健全性をもって発展するためには、盤石な財政基盤を堅持しつづけることが必要であり、その実現に向けて、中長期的な財政見通しを踏まえた計画的な財政運営に努めています。

財務指標については、経常収支差額比率および事業活動収支差額比率を10%以上、積立率を100%とすることを中長期の目標としていますが、昨今の諸物価上昇や今後の施設整備計画等を踏まえ、当面は各指標について、それぞれ8%以上および80%以上を目標とします。

2025年度の経常収入は、学部および大学院修士課程の学生数増加に伴う学費収入の増加や、志願者数増加に伴う検定料収入の増加に加え、修学支援制度補助金の増加等により経常費等補助金も増収となり、全体として前年度比で17億円の増加となりました。

一方、経常支出は、物価上昇の影響に加え、大宮キャンパスの新校舎完成に伴う費用や奨学費の増加、および、人件費の増加等により、全体として前年度比15億円の増加となりました。

この結果、経常収支差額比率は9.9%となり、前年度比プラス0.4ポイントの上昇となりました。

近年の物価上昇や将来の少子化を見据えると、本学の経営環境は引き続き厳しい状況が見込まれます。大宮キャンパス再整備工事(O-CAMP2027計画)が進行する中、柏中学高等学校の校舎整備等の大型投資も控えており、収支基盤の強化と内部留保の充実が重要な課題となっています。

今後も外部資金の積極的な獲得やAI・DX活用による支出の抑制、資産運用の拡充等を推進するとともに、芝浦工大ビルでの収益を下支えとしながら、盤石な財政基盤の確立に努めてまいります。

### 4. 教育研究改革

社会や産業の変化に対応し、これからの時代に必要とされる人材を育成するため、学部・大学院の教育改革と教育研究環境の整備を進めました。

工学部では、2024年4月に導入した、複数の専門分野を横断して学ぶ6課程・9コースの課程制について、2年目として教育内容の充実を図りました。専門分野の深化と分野横断的な学びの機会を組み合わせた教育研究を展開しました。

システム理工学部では、2026年4月からの新たな教育体制への移行に向けた設置認可を得ました。複数分野を横断して学ぶ教育課程や学際的な科目、柔軟な履修制度の整備を進めるとともに、入学定員を485人から705人へ増員する計画を具体化しました。また、新たにスポーツ工学分野への展開を進めました。

大宮キャンパスでは、O-CAMP2027計画のもと、システム理工学部の教育改革と定員増に対応する新施設として、9号館創発棟が竣工しました。本施設は、環境省「脱炭素先行地域」の取組の一環として、さいたま市、埼玉大学、東京電力パワーグリッド株式会社と連携し、脱炭素や省エネルギーに配慮した施設として整備しました。

デザイン工学部では、ICTやデータサイエンスを基盤とした教育を展開し、社会情報システムコース、UXコース、プロダクトコースにおいて、社会課題の解決に資する人材育成を進めました。また、2028年度からの入学定員増および1・2年生の豊洲キャンパスへの就学地移転に向けて、教育体制および施設整備の準備を進めました。

建築学部では、APコース(Advanced Project Design Course: 先進的プロジェクトデザインコース)、SAコース(Space and Architectural Design Course: 空間・建築デザインコース)、UAコース(Urban and Architectural Design Course: 都市・建築デザインコース)の3コースにおいて、それぞれの教育方針に基づくカリキュラムを実施し、建築分野における専門性の高い教育研究を展開しました。

理工学研究科では、高度な専門知識と研究力を備えた技術者・研究者の育成を進めました。博士課程では、2024年度に採択された文部科学省「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」に基づき、博士課程学生の研究環境の整備およびキャリア形成支援を継続して実施しました。

また、学位分野に基づく柔軟な教育研究プログラムへの転換や、学部の課程制との接続を見据え、2028年度からの学位プログラム制への移行に向けた制度設計および運用準備を進めました。大学院進学率は50%に達する見込みとなり、進学促進施策の成果が現れています。これに対応するため、豊洲学事部大学院課を「大学院学事部」に改組し、組織体制の強化を図りました。

これらの積極的な教育改革の推進により、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」において、13年連続で全4タイプ選定されるなど、改革が着実に実を結んでいるといえます。今後も、学生数1万人規模をひとつの目標に掲げた大学改革を継続し、教育の質の向上と保証を確立していく方針です。

## 5. グローバル・DE&I推進

芝浦工業大学では、「スーパーグローバル大学創成支援」(SGU)事業完了後も、学長のリーダーシップのもと、学生が世界に通用するグローバル理工系人材として世界に羽ばたけるよう、グローバル化の推進を継続しました。2025年度においては、海外での物価高や急激な円安による海外渡航費の高騰等、留学には深刻なマイナス要因が続きましたが、派遣については1,023人の学生が、派遣プログラムに参加することができました。同様に、受入については海外協定校の学生にも授業履修プログラム(サンドウィッチプログラム)や研究指導プログラムを提供し、学部・大学院の正規留学生も含め、1,943人の学生が短期/長期留学しました。また、8月には、大鷹正人駐タイ王国日本特命全権大使はじめ、タイ/日本の大学関係者や現地メディア関係者等出席のもと、SIT ASEANサテライトオフィス(バンコク)の開所式を執り行いました。当サテライトオフィスでは、ASEAN地域の大学や高校等との交流を一層深め、正規留学生のリクルーティング活動に努めました。さらに、2025年度にスタートした、タイ国政府が自国高校生等に奨学金を付与し海外派遣するプロジェクト(ODOS)の2026年度受入校として、日本においては本学が唯一採択されました。

DE&I推進では、多様性・公正性・包摂性(Diversity, Equity & Inclusion: DE&I)の保障を軸とし、全教職員の共通認識のもと、意識啓発および制度整備を推進しています。芝浦工業大学では、SDGs宣言および「多様性の保障・公正性の保障・包摂性の保障」から構成されるDE&I推進宣言に基づき、取り組みを展開しています。2025年度は「芝浦工業大学 DE&I中長期計画(2025~2030年度)」を策定し、男女共同参画からDE&Iへと取り組みを発展させ、意識と行動の変容を促すフェーズとして、ロードマップに基づく施策を開始しました。性別構成の多様化については、2027年度までに女性教員・女子学生比率30%以上、職員管理職に占める女性比率50%を目標に掲げています。2025年度の実績は、女性教員18.1%(前年度18.7%)、学部学生23.7%(前年度21.8%)、大学院生19.1%(前年度17.6%)、大学院進学率は男子50.8%、女子46.8%、女性職員41.5%(前年度43.1%)となりました。女子学生の増加に向けては、女子高校生向けイベントやオープンキャンパスでの情報発信を実施するとともに、女子学生の大学院進学支援として奨学金制度やキャリア支援を継続しています。また、Shiba-joプラチナネットワークの活動を通じて、学生・卒業生・教職員の交流機会を創出し、キャリア形成支援を推進しました。加えて、2023年にSWCC株式会社とDE&I推進に関する包括連携協定を締結しており、その連携のもと、ヤンマーホールディングス株式会社とともに「DE&I×技術がイノベーションを創出することを体感しよう!」特別講演会および体験型ワークショップを実施するなど、産学連携によるDE&I理解促進の取り組みを推進しました。

環境整備としては、オールジェンダートイレの導入やライフイベント支援制度の周知を進めました。特に、4月に制定した「学校法人芝浦工業大学 子育て特別旅費規程」を10月に改定し、対象を国内旅費にも拡大したことにより、制度の利用が促進され、教職員が研究・教育活動と育児を両立できる環境整備を推進しました。さらに、教職員の交流機会の創出等を通じて、働きやすく学びやすい環境づくりに取り組みました。

今後も、中長期計画に基づき、制度・環境・意識の三側面からDE&Iを推進し、すべての構成員がWell-beingを実感できる環境の実現を目指します。

## 6. 産学官連携の推進

芝浦工業大学では、「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神として掲げ、産学官民との共創を教育研究活動の重要な柱として推進しています。大学が創出する知を産業界や地域社会へと還元し、イノベーションの創出を通じて国際社会の発展に寄与することは大学の重要な使命です。研究成果の社会実装や新規事業の創出、アントレプレナーシップを備えた人材育成の観点から、複合領域産学官民連携推進本部を中心に産学官民連携活動を継続的に展開しています。

2025年度は、企業との共同研究を通じた研究力強化の取り組みが一層進展しました。受託・共同研究の件数は300件を超え、金額は550百万円に迫り、対前年比で10%以上の伸びとなりました。特に、スズキ株式会社と共同で「スズキモビリティ連携デジタルツイン共同研究講座」を開設し、次世代モビリティ社会を支えるデジタルインフラ技術の研究を推進しています。本講座では、高精度三次元空間デジタルツイン技術を活用した自動走行やスマートモニタリングなどの基盤技術の開発を目指しており、社会課題の解決と新たなモビリティサービスの創出への貢献が期待されています。こうした共同研究講座制度を活用することで、企業との長期的・組織的な研究連携を推進し、本学の研究成果の社会実装を加速させています。

また、企業との連携による人材育成や知の交流も積極的に進めています。SWCC株式会社及びヤンマーホールディングス株式会社と連携し、「DEI×技術」をテーマとした特別講演会およびワークショップを豊洲キャンパスで開催しました。企業の第一線で活躍する理工系人材が経験や知見を共有し、技術と多様性の融合によるイノベーションの可能性について議論する場となりました。こうした産学連携イベントを通じて、学生や研究者が社会課題と技術の関係を体験的に学ぶ機会の創出を図っています。

学生のアントレプレナーシップ教育の取り組みも継続的に発展しています。学生が社会課題の解決につながるビジネスモデルを提案する「芝浦ビジネスモデルコンペティション(SBMC)」は、2025年度に第10回を迎えました。本コンペティションでは、研究室で生まれた技術シーズや研究成果を社会価値へと結び付けるアイデアが多数発表され、企業や外部専門家の協力のもと、技術の社会実

装を志向した教育プログラムとして定着しています。これまでの累計参加者は1,000人を超え、学生のキャリア形成や起業志向の醸成にも寄与しています。

今後も芝浦工業大学は、企業・自治体・地域社会との連携を通じて研究成果の社会実装を推進するとともに、社会課題の解決に資する技術開発と次世代イノベーション人材の育成に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



スズキ株式会社常務役員 技術戦略本部長 角野卓氏(左)と山田学長



第10回SBMCファイナルステージの様子

## 7. 戦略的広報活動

大学ブランド力のさらなる向上を目的として、戦略的な広報活動を展開しました。具体的には、学部改編の情報発信、研究成果の周知、研究室の魅力紹介、学生と協働した情報発信、各種イベントの広報など、多角的な取り組みを実施しました。

受験生向けの広報としてはまず、次年度入試における目玉として2026年度より課程制を導入するシステム理工学部に関し、新たな教育内容や研究の魅力を正確かつ効果的に伝えることを重視し、サイトや各種媒体を用いて工夫を凝らした紹介コンテンツを制作しました。これにより、受験生及び保護者に対するこれら新しい教育導入の認知度と理解の向上を図りました。さらに、女子生徒や地方出身者、中学生などさまざまな対象に応じたイベントを開催し、理工系分野ならびに本学への進学意欲の醸成を図りました。また、高校生向けの最大イベントとして実施したオープンキャンパスでは、豊洲キャンパスで12,739人、大宮キャンパスで7,105人と、ともに過去最高の来場者数があり、多くの人に本学の魅力を伝えることができました。

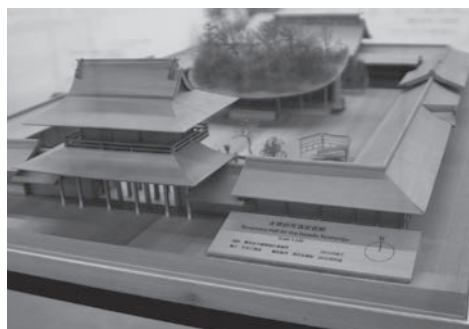
大学広報としては、教員の研究成果を積極的にプレスリリースやニュースリリースとして発信するとともに、研究室紹介動画の制作・公開を通じて、学内外への研究関連の情報提供を強化しました(プレスリリース発信件数:2024年度69件→2025年度82件)。加えて、在学生によるSNSを活用したキャンパスライフの情報発信も推進し、学生の視点から芝浦工業大学の魅力を発信する取り組みを行いました。

2025年9月26日から10月26日にかけて開催された**第4回建築家展「藤本壮介展～太宰府天満宮仮殿の軌跡」**には、過去2番目となる延べ4,577人以上の来場者を迎え、芝浦工業大学の発信力を示す良い機会となりました。また、国際女性デーに際しては、朝日新聞及び読売新聞において広告を掲載し、女性研究者が少ない日本の社会的課題に対して理工系女子を一貫して支援する本学の姿勢を広く社会に示しました。

これらの施策の成果として、2025年度の大学公式Webサイトのトップページ来訪者数は885,966PV※に達し、X(旧Twitter)のフォロワー数は15,079人※(2025年度目標:15,000人以上)、YouTubeチャンネル登録者数は8,600人※(同目標:8,500人以上)、Instagramのフォロワー数は、10,768人※(同目標9,000人)、TikTokのフォロワー数は、4,147人※(同目標:4,000人)となるなど、デジ



オープンキャンパス



第4回建築家展(藤本壮介展)



国際女性デー広告

タルメディアを通じた情報発信の到達度も着実に向上しています。今後も、社会との接点を広げる広報活動を継続的に推進し、芝浦工業大学の教育・研究の魅力を多様な層に向けて発信してまいります。(※2026年3月31日時点)

## 8. DXの推進

芝浦工業大学では、2025年度もDX(デジタルトランスフォーメーション)推進に取り組み、教育・研究・業務運営を支えるICT基盤の高度化を進めました。教育研究環境の整備では、CBTや動画コンテンツ等を授業で活用できる環境づくりを進めるとともに、教室設備・情報機器の更新により、新しい教育手法を試行できる環境整備を推進しました。教育改善に関するFDSD研究会では、生成AIを用いた学修支援、教育研究活動における生成AI活用、ならびに豊洲PC教室リプレイス後のCBT環境について共有を行い、教育改善とICT環境整備を連動させる取り組みを進めました。

教職員のITリテラシー向上とDX推進人材の育成については、生成AIやNotion等の新たなデジタルツールを対象とした情報共有・研修機会を継続的に設けました。特に業務効率化・DX推進プロジェクトにおいては、エバンジェリスト教員やDXパートナー職員と連携体制を構築し、全学的な課題の解決を進めました。これに加え、教育改善FDSD研究会等を通じて、教員・職員双方が生成AI活用やCBT運用に関する知見を共有する体制を整えました。

学内事務システムにおいては、Notionを活用した依頼・提出資料等の一元化をさらに進め、関連データベースと連携する仕組みの整備を推進しました。具体的には、Notion API由来の複数シートから依頼情報を集約し、「依頼」シートへ一括出力する仕組みを整備し、依頼案件の可視化と管理の効率化を図りました。また、業務マニュアルの平準化に向けて、Notionページを共通の参照基盤とし、マニュアルの所在集約、閲覧方法、作成ルールの整備に関する検討を進めました。これらにより、部署横断での情報共有と業務標準化を着実に前進させました。課程制に対応した新教務システムについても、2025年度中のリリースに向けた準備を進めました。

教室環境については、PC教室・一般教室における映像表示環境、モニター、プロジェクター等の更新・調整を進め、CBT実施や動画活用授業に対応可能な環境整備を推進しました。あわせて、教室での運用方法や機器仕様の確認を進め、授業実施上の利便性向上を図りました。

図書館における取り組みとしては、公開データの格納・公開方法を含む研究成果公開環境の整備を進めるとともに、機関リポジトリ運用や即時オープンアクセス対応に関する学内運用の具体化を進めました。2025年度以降、科学研究費助成事業など多くの競争的研究費における即時OA義務化を踏まえ、論文の公開先、エンバゴ期間、関連費用等を確認するための申請・確認フローの整備を進めました。今後は、既存の機関リポジトリで管理する文献の拡充と、新規システムとの連携運用を通じて、研究者に対するオープンアクセス支援環境の充実を図ってまいります。

## 9. 学生募集・女子学生の拡充

2026年度入試においては、前年度に引き続き、「より適切な入試方法による、より本学に適性を持つ学生の確保」を基本方針として掲げ、以下4点の重点目標について戦略的な施策を展開しました。

|                               |        |
|-------------------------------|--------|
| 特別・推薦入試による入学者割合               | ：40%   |
| 女子学生比率                        | ：30%以上 |
| 地方出身入学者比率の向上(100周年時に25%以上を目標) |        |
| 大学院進学率の引き上げ                   | ：60%   |

これらの目標達成に向け、入試広報媒体の整備と併せて、オープンキャンパス、大学説明会等のイベントを効果的に運営しました。一般入試における延べ志願者数は53,158人で、前年比138.0%と大幅に増加しました。大学入学共通テスト利用方式を改編したことが志願者増に大きな影響を与えました。入学定員2,071人(秋入学を含まない)に対し、特別・推薦入試による入学者数は904人となり、入学定員に占める割合は43.7%(前年：44.0%)となりました。

女子生徒の理工学分野への進学選択の環境を醸成することを目的として開催した女子生徒向けの「女子高校生対象ミニオープンキャンパス」及び「女子高校生サマーインターンシップ」の参加者数はそれぞれ、494人(前年比+65人)及び94人(前年比+8人)となり、年を追うごとに参加者が増え続けています。これらの活動の結果として、それぞれの生徒の進路決定に寄与することができ、本学の女子学生の入学者数は以下のとおりとなりました。

|                |                         |
|----------------|-------------------------|
| ・女子入学者数        | ：629人(前年比110.0%)        |
| ・入学者全体に占める女子比率 | ：30.8%(前年：27.8%、+3.0PT) |

今回、初めて女子の入学者が30%を超えることとなり、理工学系女子の輩出にも大きく貢献することができました。

また、これまで本学は女子校3校と高大連携事業に関する協定を締結しておりましたが、女子校との高大連携事業を拡大すべく、これに加えて2026年3月末までに新たに6校と協定を締結いたしました。2026年度も引き続き協定締結を進めて、締結校は計15

校程度となる見込みです。本学は各校との交流・連携を通じ、生徒の学びと進学意欲向上および理工学教育推進に必要となるさまざまな高大連携事業を実施していく予定です。

地方（一都六県外）出身の入学確保に向けては、「特別指定校」の制度を充実させました。2026年度入試に向け、本学への入学実績のある全国の進学校・工業高校等を対象とした「特別指定校」を46校から90校まで増やし、高校を訪問して優秀な生徒の推薦を依頼するほか、それに伴うPR活動も積極的に行いました。また2023年度より導入した地方出身者向け「朝日に輝く奨学金」については、支給対象や給付金額・人数を見直したほか、国公立大学と同等の学費水準となる改定を行い、地方高校への周知活動を強化しました。

このような強化施策に取り組みましたが、一都六県外からの入学比率は17.8%となり、前年より3.2PT減少する結果となりましたので、この要因を分析したうえで取り組みの改善を図ってまいります。

さらに大学院進学率についても2021年までは30%台で推移していたものが50.0%（2026年3月卒業生）へと増加しており、2027年の創立100周年までには60%を目標とし、今後はさらに70%へ引き上げることを目指しています。

これらの各種施策が2025年度（2026年度入試）の成果として反映されています。今後も引き続き、多様な背景を持つ優秀な学生の確保を目指し、広報及び入試施策のさらなる充実を図ってまいります。



オープンキャンパス



女子高校生サマーインターンシップ

## 10. キャリア教育

芝浦工業大学のキャリア支援は、入学時から将来を見据えた支援を行い、各学年に応じたキャリア指導で学生の成長を支えています。学生一人ひとりの考え方や希望、将来への展望を丁寧に把握し、個々の事情に寄り添った指導を行っており、その結果、毎年高い就職率を維持しています。

創立100周年（2027年）を迎える目標として、有名企業400社への実就職率45%、就職率100%を掲げています。2025年度においても、相談窓口を早朝から夜間、さらに日曜・祝日も対応可能な体制を整え、より多くの学生に対して助言を行うとともに、不安や悩み等の相談に応じることができました。また、企業の元役員や採用経験者による「採用側からの面接練習・書類添削」として相談を受け付け、多くの学生の内定獲得を導きました。2026年3月卒の就職率は99.5%となり、特に学部の女子学生の就職率は100%を達成しました。有名企業400社実就職率においては、42.4%となり、昨年比では+1.2ポイントの結果となりました。なお、2025年3月卒業生の有名企業400社実就職ランキングでは、41.2%にて、全国の大学で7位、私立大学で3位に位置しました。企業訪問では、採用実績の拡大、過去に実績のある企業との関係強化、新規企業の開拓等に努めました。また優良企業の採用担当者を招いた「企業懇談会」を開催し、2025年度は、320社・約600人が参加しました。桑田キャリアサポートセンター長をファシリテーターに、教育ジャーナリスト石渡嶺司氏とデザイン工学部原田教授による対談「採用氷河期の企業戦略と芝浦工業大学の人材育成」も実施し、若者の気質やSNS活用について意見交換が行われました。参加企業からは採用活動の参考になったとの声が多数寄せられ、企業様との交流を一層深めることができました。また、若手OB・OGによるパネルディスカッション「就活フェア」では、学生が実体験に基づく有益な情報を得る機会となりました。加えて「合同企業説明

就職先ランキング（採用実績上位企業・自治体）

| 2025年度 |                 |    |     | 2024年度 |                     |    |     |
|--------|-----------------|----|-----|--------|---------------------|----|-----|
| 順位     | 就職先             | 総計 | 内女性 | 順位     | 就職先                 | 総計 | 内女性 |
| 1      | 日本電気株式会社        | 35 | 5   | 1      | 三菱電機株式会社            | 26 | 5   |
| 2      | 本田技研工業株式会社      | 27 | 2   | 2      | 本田技研工業株式会社          | 23 |     |
| 3      | 東京都             | 24 | 10  | 3      | 大和ハウス工業株式会社         | 20 | 8   |
| 4      | 三菱電機株式会社        | 20 | 1   | 4      | 日本電気株式会社            | 18 | 2   |
| 5      | 東日本旅客鉄道株式会社     | 19 | 3   | 5      | 東京都                 | 16 | 6   |
| 6      | 大成建設株式会社        | 16 | 1   |        | 清水建設株式会社            | 16 | 5   |
| 7      | 株式会社長谷工コーポレーション | 12 | 3   |        | 東海旅客鉄道株式会社          | 13 | 1   |
|        | 清水建設株式会社        | 12 | 2   |        | 日産自動車株式会社           | 13 | 4   |
|        | SCSK株式会社        | 11 | 2   | 7      | 富士通株式会社             | 13 | 3   |
| 9      | トヨタ自動車株式会社      | 11 | 2   |        | 大成建設株式会社            | 13 | 1   |
|        | 東京エレクトロン株式会社    | 11 | 1   |        | 東日本旅客鉄道株式会社         | 12 | 1   |
|        | 日産自動車株式会社       | 10 |     | 11     | 株式会社NTTデータグループ      | 12 | 3   |
|        | 株式会社NTTデータグループ  | 10 | 1   | 13     | NECソリューションイノベータ株式会社 | 11 | 2   |
| 12     | 株式会社日立製作所       | 10 | 1   |        | 株式会社竹中工務店           | 10 | 1   |
|        | ソフトバンク株式会社      | 10 | 2   | 14     | 株式会社日立製作所           | 10 | 3   |
|        | 株式会社東芝          | 10 | 3   |        | トヨタ自動車株式会社          | 10 | 2   |

会」など毎年恒例の重要なイベントも実施し、就職支援の機会を多様な形で提供しました。

公務員試験でも成果が見られ、2025年度の東京都職員採用(技術職)において、本学から46名(昨年:33名)が合格し、全合格者300名中本学が約15%を占める結果となり、過去最高となりました。元公務員の卒業生による指導体制など、きめ細やかな支援がこの結果につながっています。



キャリアサポート課窓口



就活フェア

## 11. 学生支援の充実強化

### ■ 学生生活支援

芝浦工業大学校友会・後援会との連携による就職支援、生活支援、学生課外活動支援を実施しました。また、2024年3月にオープンした芝浦工業大学熱海セミナーハウスは、学生・生徒が授業、研究室ゼミ合宿、課外活動で利用するほか、卒業生や教職員、その家族を含め多様なステークホルダーに活発に利用いただきました。豊洲、大宮校舎において、女子学生の増加に伴う教育・研究環境整備の一環として、2025年8月から両キャンパスの女子トイレに生理用ナプキンを設置し、無償で提供を開始しました。さらに大宮キャンパス生協食堂は内装を大きく改装すると同時にテーブルやイスなどの什器も新しく入れ替え、いっそう彩り豊かになり、より食事を楽しめる空間にリニューアルしました。

### ■ 課外活動支援

豊洲キャンパス本部棟4階の多目的室に防音壁を設置し、課外活動団体向けに利用を開始しました。また、課外活動援助金の交付を実施し、特にエスアイテック育英奨学金(体育会・文化会で活躍している学生対象)の採用基準を見直し、より多くの学生に給付できるようにしました。加えて、新型コロナウイルスの影響で中断していた救命講習会を学生センター主導の下、課外活動団体(公認団体)を対象に実施を再開いたしました。

なお、課外活動奨励金表彰団体及び主な成績は以下のとおりです。

<芝浦工業大学2025年度課外活動奨励金表彰団体及び主な成績>

#### ①自動車部

全関東学生ジムカーナ選手権大会 優勝

機械工学科4年 河原 輝さん:全日本学生ジムカーナ選手権大会 9位(全国大会)

#### ②スキューバダイビング部

関東学生潜水連盟フリッパー大会 総合優勝(関東大会)

全日本学生水中フォト&ビデオコンテスト3位入賞(全日本)

#### ③アメリカンフットボール部

土木工学科4年 松田 凜さん:関東学生アメリカンフットボール連盟秋季リーグ戦2部リーグにて「2部リーグ最優秀選手賞(インターセプト部門)」受賞(関東リーグ)

#### ④ヨット部

機械機能工学科4年 尾茂田 昌士さん:関東470選手権 上位29位以内に入り全日本選手権への出場権を獲得&全日本470級ヨット選手権大会 出場

建築学科4年 濱口 寛太さん:同上

#### ⑤男子バスケットボール部

秋季理工系トーナメント 準優勝

また建築系の活動においては、2026年4月25日に行われた「サンゴバン国際学生建築コンテスト」日本大会（主催：サンゴバングループ（東京都千代田区））で、本学学生が2・3位に入賞しました。加えて、原田真宏教授（建築学部）主宰のMount Fuji Architects Studioを代表とする5社が、前橋クリエイティブシティ県庁～前橋駅都市 空間デザイン 国際コンペにて最優秀作品を受賞しています。

## 12. 附属・併設学校の強化、中高大連携と理系女子の育成

### ■ 併設校の強化

少子化の進展を踏まえ、大学と併設校による緊密な中高大連携は学校法人としてのブランディング確立を考える上でも非常に重要です。経営戦略室をハブとした法人と両併設校との連携は重要性を増しています。附属、柏両校と緊密に連絡を取り、各種共通課題の解決や新規プロジェクト等の策定を図りながら、さまざまな事業を推進しています。

急激な社会情勢の変化の中、首都圏の数多の私立中高の中で、芝浦工業大学の併設校という特色を生かしながら、それぞれの創立の理念などは堅持しつつ、時代の変化に対応できる学校作り、校務運営が求められています。附属校は都心に、柏校は郊外に立地しており、各校の独自性をベースにしながらか学校運営をしていく必要があります。大学との連携を深化させながら、併設校同士の連携もより確実なものとし、新しい学力観を基軸にした授業研究と授業実践を推進し、併せてキャリア教育の充実を図ってまいります。

### ■ 芝浦工業大学附属中学高等学校

附属中学高等学校では、芝浦工業大学の併設校である強みを最大限に活かし、理工学の面白さや有用性を実感できる授業を展開しながら、一貫して「理工系人材の育成」に取り組んできました。「理工系の知識で社会問題を解決する」ことが目標の探究型授業は、2025年度に中学校から高等学校まで一貫した指導体制の確立を目指し、「探究DAY」における成果発表では、生徒の表現力や課題解決力の向上が見られ、校内外から好評を得ることができました。

グローバル教育の面では、タイおよびインドから短期留学生を受け入れ、本校生徒宅でのホームステイ、授業や活動の体験を通して生徒同士の交流が深まり、相互理解を促進する有意義な機会となりました。さらに、本校初の取組として、高校1・2年生を対象とした本校企画のタスマニア短期留学（3か月間）に2名の生徒が参加し、高校3年生の芝浦工業大学早期推薦者を対象とした短期留学では、参加人数を従来の12名から16名へと拡充することができました。

芝浦工業大学への内部進学率は増加傾向にあり、2026年度入学者では約60%となっています。今後は早期に内部進学率70%の達成を目指すとともに、女子生徒の進学率向上にも重点的に取り組んでいきます。その一環として、女子生徒の入学促進を図るため、芝浦工業大学と連携し、理工系分野の魅力を発信するイベントの開催に向けた検討を開始しました。

今後の中長期的な視点に立ち、芝浦工業大学との連携を軸に、学校の魅力向上に継続して努めてまいります。



インドからの留学生と交流（熱海セミナーハウスにて）



タイからの留学生受け入れの様子

### ■ 芝浦工業大学柏中学高等学校

柏中学高等学校は2030年に創立50周年を迎えることから、新校舎建設構想が法人のサポートのもと動き出しています。併せて、ソフト面で各種記念事業も行うことになっており、プロジェクト全体の具体的なスケジュールを固めています。

2025年度は在校生の教育環境の充実を図るため、第一グラウンドの人工芝張替え工事を実施したほか、小体育館の空調施設整備、26年度の供用開始を目指し、自習空間の充実といった側面も踏まえ、カフェテリアの改修工事を行いました。

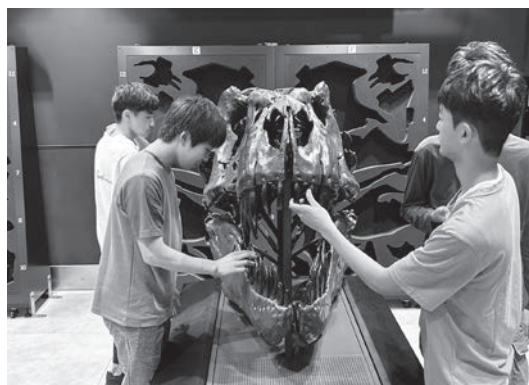
教育面では、芝浦工業大学の磐田朋子副学長による中学生への講演会や、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）第Ⅲ期に指定されたことに伴い、生徒の知的好奇心を育むための課題研究を充実させるため、連携協定を結んでいる千葉大学との共催による「教師がつながる探究発表交流会」を7月に開催し、小・中・高校の教員が全国から集まり学校の垣根を超えた実践発表を行いました。また、

11月には千葉県内の児童生徒が会し、課題研究の成果を発表する「探究DAY」を本校で開催し、SSH指定校に課せられている地域への成果の普及に取り組みました。このほか、福井県立大学恐竜学部の協力により、現地で発掘体験などのフィールドワークを実施、国際教養大学などの特色ある地方大学と連携協定を結びました。

このように芝浦工業大学との連携を軸としながら、生徒たちのキャリア開発につながる大学等とも交流を進めた結果、東大などの難関国立大10大学に計16人（東大3、京大2、東京科学大5など）、海外大に計14人が合格し過去最高レベルとなったほか、芝浦工業大学への内部推薦合格者も過去10年で最高の46人となりました。



「探究DAY」で近隣小中高校と交流



恐竜プロジェクトに参加する生徒たち

### 13. キャンパスや諸設備の整備

#### ■ 大宮キャンパス工事計画

長年にわたり計画されてきたO-CAMP2027が、システム理工学部の課程制移行に合わせ本格的に進められています。新施設である9号館創発棟は2025年12月に完成しました。

9号館創発棟完成後は、6号館の大規模改修工事、体育館解体後の跡地に食堂棟・購買棟を建設、最終的には正門周辺の整備を行い2027年度末完成を目指します。

#### ■ 2025年度新設の主な施設設備

##### ①大宮キャンパス：9号館創発棟

9号館創発棟の建設は、株式会社安井建築設計事務所の基本設計・監理のもと2024年3月に鹿島建設株式会社にて工事が開始され、2025年12月20日に竣工しました。引渡し後、什器・備品の搬入、引越しを経て2026年4月に供用開始となります。この建物は、地上7階建て、延べ床面積21,720㎡のRC造で、体育館、地域健康増進センター、ラーニングcommons、研究室、実験室等を配し、ZEB Readyを達成した環境に優しい建物となっています。

##### ②豊洲キャンパス：デザイン工学部改組に向けた本部棟整備

2028年度に予定しているデザイン工学部の定員増及び豊洲キャンパス一貫化に向け、施設整備計画を策定しました。2025年度は本部棟12、13階に研究室、オープンラボ等の整備をし、定員増の対応を行いました。

#### ■ 2025年度の主な施設設備の維持管理

##### ①豊洲キャンパス空調設備更新工事

竣工後20年が経ち、機器の更新時期が過ぎました。2025年度は研究棟5階及び9階等の空調の更新やサーバールームのUPSの更新を行いました。

##### ②大宮キャンパス脱炭素先行地域の対応

省エネ対策として、大学会館の空調機及び全熱交換機の更新を行いました。また豊洲キャンパスと同様にUPSの更新を行いました。

##### ③附属中学高等学校グラウンド整備工事

経年劣化のため、グラウンドに敷設されている人工芝の全面貼り替えを行いました。

#### ■ 次年度以降に向けての計画・検討

##### ①O-CAMP2027の2期、3期計画の検討

2025年6月に6号館改修工事の施工業者に株式会社ナカノフドー建設を選定し、実施設計完了後2026年4月から改修工事を行

います。また、体育館の解体を2025年12月から開始し、2026年5月に完了します。体育館跡地に建設する2期計画：食堂棟・購買棟の施工業者にはボラテック株式会社を選定し、実施設計を行っています。さらには生協裏の南側道路が2027年度に完成する事から、エントランスを現生協の場所に移設する3期計画を行っています。

#### ② 柏中学高等学校再編計画に向けた検討

開校45年を迎えた柏中学高等学校は建物や設備が老朽化しています。昨年度までに株式会社堀越英嗣 ARCHITECT 5にて建替えの基本設計を行いました。現在は、建設物価が高騰していることから、コストを抑える構法の検討を行っています。



大宮キャンパス9号館創発棟



大宮キャンパス新食堂棟・購買棟イメージ パース図

## 14. リスクマネジメント体制の強化

### ■ 災害対策

各地で災害が頻発するなか、首都圏で起きると想定される大震災に対する対策を進めました。

#### ① 災害リスクアセスメントツアーの実施

2025年度は、全てのキャンパスにおいて防災専門家の指導のもと、各キャンパスの教職員が学内を巡回する「災害リスクアセスメントツアー」を企画しました。災害時における負傷や人命に関わる事象の多くは、事前の対策によって防止可能であるという認識に基づき、「できる対策をしないことこそが最大のリスクである」との視点から、学内の危険箇所を確認しました。

また、本ツアーに先立って行われた講義は、研修動画として全教職員向けに公開し、参加者に限らず視聴できる仕組みを整えることで、防災意識の向上および安全対策の改善につなげています。

#### ② 学生向け啓発活動の展開

学生に対しては、防災分野で高い発信力を有するYouTuberを招き、講演会を開催しました。防災を身近な自分事として捉えるための具体的な方策が提示され、講演内容を再録した約80分間のYouTube動画は、現在も継続して公開されています。これにより、時間や場所を問わず学生が防災知識を習得できる環境を整えることができました。

#### ③ 休日・夜間における災害対策初動体制の構築

休日や夜間の災害発生に対しても、実効性のある初動体制構築を目指しました。その一環として、徒歩でキャンパスに参集可能な事務職員による「災害対策主導コアメンバー部会」を豊洲・大宮の両キャンパスに設置し、具体的な対応計画を確認する研修会を開催しました。

#### ④ 今後の展望

今後も、防災・減災・復旧に関して現実的かつ実効あるマネジメント体制整備に努めます。

### ■ 化学薬品管理

#### ① 化学物質管理体制の確立

2025年度より、化学物質管理は「危機管理室(薬品管理担当)」を中心とした新体制へ移行し、指揮命令系統の統一と人員拡充により、個人依存から組織的対応へ強化しました。あわせて、化学物質の管理状況の共有と監督指導を行う「化学物質管理委員会」(拡大委員会を含む)を整備し、理事長・学長への報告体制を明確化しました。

#### ② 薬品管理方法の統一

運用面では、管理ツールをIASOに統一し、原則として保有薬品の登録・管理を義務化するとともに、購入品は検収センターで全件IASO登録を開始しました。毒・劇物は施錠保管を徹底し、数量の管理を毒物は重量管理、毒物以外(劇物含む)は本数で統一しました。さらに、毒劇物を収納する薬品保管庫のキーを専用のキーボックスで管理、電子天秤による重量管理及びIDカードによるキーボックス及びIASOの認証を導入し、化学物質の適正使用と適切な記録を高めました。

## ③薬品の移動・譲渡・廃棄の明確化

規程改正に伴い、購入可能薬品の学外及びキャンパス間の移動禁止、研究室間での譲渡を禁止し、退職時は指導学生が研究室を移動する場合を除きすべて廃棄することになりました。また、購入から3年以上経過し、使っていない薬品は廃棄するなど移動・譲渡・廃棄のルールを明確化しました。

## 15. 地域貢献・社会貢献

芝浦工業大学は社会貢献・地域貢献として教育・研究成果を広く社会・地域に還元し、学びの場を提供することにより「開かれた大学づくり」に取り組んできました。また、これまで進めてきた地域や自治体と連携した教育・研究・社会貢献は、地域と共にある大学として、地域社会、また産学官連携の中核的存在となるような取り組みも展開してまいりました。

大学における公開講座は、社会貢献事業として大学の第3の役割を担っています。研究教育機関として大学が持てる専門知識を広く社会・地域に還元することは大学の使命であります。その中で、アウトリーチ活動として「芝浦工業大学らしさ」を前面に打ち出した公開講座を積極的に開講してきました。地域住民をはじめ多くの方に広く生涯学習の機会を提供する一般向けのオープンカレッジや、将来の科学技術をけん引する理工系人材の育成に資することを目的に、子供たちの「ものづくり」に対する興味・関心を喚起するために小中学生等を対象としたSTEAM 教育プログラムの拡充を図りました。そしてリカレント教育プログラム・履修証明プログラムといった、企業に勤務する社会人を対象としたプログラムの拡大にも取り組みました。更には、豊洲みらいプロジェクト、近隣小学校への出張授業、みなと区民大学や子ども大学など、自治体等と連携した講座も精力的に実施し、2025年度は合計34の公開講座を開講、800人以上の受講者を集めました。地域との交流としては、豊洲キャンパス周辺企業と協業したまちづくり活性化イベント等に積極的に参画したほか、近隣住民や企業との連携による「豊洲水彩まつり」の開催や、今年で開催3回目となる「豊洲小学生絵画コンクール」では近隣小学校での授業に作品制作を取り入れていただくなど連携強化を進めました。

2023年度より大阪公立大学より主催を引き継ぎ、芝浦工業大学主催として3回目の大会となる「第20回高校化学グランドコンテスト」では、全国から過去最高の66校110チームの応募があり、海外からの参加5チームと併せて115チーム550人が最終選考に参加し、高校生の化学への探究心を育む場として、高い評価を得ました。また豊洲キャンパスでは、「豊洲フラワーガーデン」や近隣に住む子どもたちの遊び場として設置された「シバウラキッズパーク」、本部棟1階に設置された「SITグローバルカフェ」及び「銀座シシリア豊洲店」が、地域住民にも広く定着し、地域における日常的な交流拠点として機能しています。大宮キャンパスにおいては、大宮キャンパスの再整備プロジェクト「O-CAMP2027」の一環として建設された地上7階建ての新校舎「9号館創発棟」が完成し、多様な分野の学生や研究者が集い、交流し、協働することで新たなアイデアやイノベーションを生み出す拠点として今後の活用が期待されています。芝浦工業大学は、今後も地域との連携を重視し、教育・研究・社会貢献の各分野を通じて持続可能で豊かな地域社会の実現に向けた先導的な役割を果たしてまいります。



豊洲小学生絵画コンクール



公開講座

## Ⅲ. 財務の概要

### 2025年度決算の概要

#### 貸借対照表

##### 【貸借対照表の状況と経年比較】

大宮キャンパス創発棟の完成に伴い、建物および機器備品の取得が進んだことから、固定資産は前年度比48億円増加しました。一方で、大宮キャンパスの整備工事費を中心とする支払いのため、特定資産は前年度比約30億7千万円減少しました。これらの結果、総資産は前年度比35億4千万円増の1,378億9千万円となりました。

負債については、借入金の計画的な返済により減少した一方、私立学校法改正に伴う会計基準変更により賞与引当金を計上したことによる増加があり、負債合計は前年度とほぼ同水準の184億2千万円となりました。

純資産は、施設整備に伴う基本金組入額により繰越収支差額が減少しましたが、基本金組入前当年度収支差額を計上した結果、前年度比35億3千万円の増加となりました。

この結果、純資産構成比率（総資産に占める自己資産の比率。高いほど財政的には安定）は、86.6%と引き続き高い水準を維持しており、財政基盤は安定した状況にあります。

（単位：百万円）

| 科目                 | 2021年度         | 2022年度         | 2023年度         | 2024年度         | 2025年度         |
|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 固定資産               | 111,658        | 115,089        | 118,897        | 123,517        | 128,316        |
| 流動資産               | 11,185         | 10,877         | 14,117         | 10,837         | 9,578          |
| <b>資産の部合計</b>      | <b>122,844</b> | <b>125,966</b> | <b>133,014</b> | <b>134,354</b> | <b>137,894</b> |
| 固定負債               | 10,347         | 9,308          | 14,080         | 13,271         | 11,853         |
| 流動負債               | 4,772          | 5,858          | 5,536          | 5,142          | 6,567          |
| <b>負債の部合計</b>      | <b>15,119</b>  | <b>15,166</b>  | <b>19,616</b>  | <b>18,414</b>  | <b>18,420</b>  |
| 基本金                | 118,101        | 117,511        | 121,515        | 126,322        | 135,699        |
| 繰越収支差額             | △ 10,376       | △ 6,711        | △ 8,116        | △ 10,382       | △ 16,225       |
| <b>純資産の部合計</b>     | <b>107,725</b> | <b>110,800</b> | <b>113,399</b> | <b>115,941</b> | <b>119,475</b> |
| <b>負債及び純資産の部合計</b> | <b>122,844</b> | <b>125,966</b> | <b>133,014</b> | <b>134,354</b> | <b>137,894</b> |

（注）表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 【財務比率の経年比較】

(単位：%)

| 比率名・算出方法等  | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 状況分析等   |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| <b>運用資産余裕比率</b><br>(余裕資金を示す。1.0年を超えること、かつ高い方が望ましい)<br>(運用資産-外部負債)/経常支出 | 2.0年   | 1.8年   | 1.8年   | 1.7年   | 1.4年   | 運用資産の減少と経常支出の増加により、比率は徐々に低下しているが、2025年度においても1.0年を上回っており、一定の運用資産余裕を維持している。                 |
| <b>流動比率</b><br>(資金流動性を示す。100%以上かつ高いことが望ましい)<br>流動資産/流動負債               | 234.4  | 185.7  | 255.0  | 210.7  | 145.9  | 流動比率は引き続き高水準を維持している。2025年度は施設整備に伴う現預金の減少により低下しているものの、流動資産の水準は依然として十分であり、資金繰りに大きな懸念は見られない。 |
| <b>総負債比率</b><br>(他人資金の割合。低いことが望ましい)<br>総負債/純資産                         | 14.0   | 13.7   | 17.3   | 15.9   | 15.4   | 2023年度に60億円の借入を実施したため一時的に上昇した。その後は改善傾向にあり、財務の健全性維持に努めている。                                 |
| <b>前受金保有率</b><br>(前受金に対する現金の保有率を示す。高いことが望ましい)<br>現金預金/前受金              | 326.5  | 326.5  | 410.6  | 278.8  | 204.1  | 2024年度以降、新校舎整備等に伴う支出により低下しているが、前受金を上回る現金預金を引き続き確保しており、資金繰りは安定している。                        |
| <b>基本金比率</b><br>(高いことが望ましい)<br>基本金/基本金要組入額                             | 93.9   | 94.3   | 94.6   | 94.2   | 95.0   | 借入金返済を進めており、比率は上昇傾向にある。2025年度は95.0%となり、最高限度である100%に近づいており、安定した財務基盤を維持している。                |
| <b>積立率</b><br>(積立必要額に対する積立資産の割合を示す。高いことが望ましい)<br>運用資産/要積立額             | 88.3   | 89.1   | 96.1   | 88.7   | 77.0   | 大型施設整備に伴う運用資産の取崩と要積立額の増加により比率は低下しているが、引き続き一定の積立資産を確保しており、将来の施設整備等に備えた財源維持に努めている。          |
| <b>純資産構成比率</b><br>(総資産に占める自己資産の比率。50%以上で高いことが望ましい)<br>純資産/(負債+純資産)     | 87.7   | 88.0   | 85.3   | 86.3   | 86.6   | 基本金組入や当年度収支差額の確保により、高い比率を維持している。借入金返済も進めており、安定した財務体質が継続している。                              |

## 事業活動収支計算書

### 【事業活動収支計算書の状況と経年比較】

教育活動収支においては、学生生徒等納付金が前年度比4億6千万円増の172億8千万円、経常費等補助金が12億2千万円増の41億9千万円となるなど、教育活動収入は前年度比16億9千万円増の251億円となりました。

一方、支出面では教育研究経費が前年度比12億8千万円増の113億2千万円、人件費が1億9千万円増の94億5千万円となったことを主な要因として、教育活動支出計は前年度比14億8千万円増の230億6千万円となりました。この結果、教育活動収支差額は前年度比約2億1千万円増の20億3千万円となり、収支は改善しました。

教育活動外収支においては、受取利息・配当金の増加により、収支差額は前年度比5千万円増の5億1千万円となり、その結果、経常収支差額は前年度比2億6千万円増の25億4千万円となりました。

特別収支においては、施設設備補助金15億円の収入等により収支差額は前年度比約7億4千万円増加しました。これらを踏まえ、基本金組入前当年度収支差額は前年度比9億9千万円増の35億3千万円となりましたが、施設整備等に伴う基本金組入により、当年度収支差額は58億4千万円の支出超過となりました。

(単位：百万円)

| 科 目              |                 | 2021年度          | 2022年度        | 2023年度        | 2024年度        | 2025年度        |               |
|------------------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 教育活動収支           | 事収入活動部          | 学生生徒等納付金        | 16,273        | 16,833        | 16,781        | 16,818        | 17,276        |
|                  |                 | 手数料             | 1,016         | 994           | 999           | 1,061         | 1,267         |
|                  |                 | 寄付金             | 256           | 323           | 358           | 356           | 328           |
|                  |                 | 経常費等補助金         | 2,511         | 2,498         | 2,743         | 2,975         | 4,191         |
|                  |                 | 付随事業収入          | 809           | 910           | 1,171         | 1,311         | 1,275         |
|                  |                 | 雑収入             | 653           | 821           | 910           | 890           | 760           |
|                  |                 | <b>教育活動収入計</b>  | <b>21,517</b> | <b>22,379</b> | <b>22,962</b> | <b>23,412</b> | <b>25,097</b> |
|                  | 事支出活動部          | 人件費             | 8,940         | 8,954         | 9,292         | 9,263         | 9,453         |
|                  |                 | 教育研究経費          | 7,544         | 8,986         | 9,425         | 10,036        | 11,320        |
|                  |                 | 管理経費            | 1,512         | 1,904         | 2,074         | 2,276         | 2,271         |
|                  |                 | 徴収不能額等          | 13            | 24            | 0             | 12            | 21            |
|                  | <b>教育活動支出計</b>  | <b>18,009</b>   | <b>19,868</b> | <b>20,792</b> | <b>21,587</b> | <b>23,064</b> |               |
|                  | <b>教育活動収支差額</b> |                 | <b>3,508</b>  | <b>2,511</b>  | <b>2,170</b>  | <b>1,825</b>  | <b>2,033</b>  |
| 教育活動外収支          | 事収入活動部          | 受取利息・配当金        | 21            | 18            | 28            | 28            | 129           |
|                  |                 | その他の教育活動外収入     | 0             | 404           | 513           | 505           | 442           |
|                  |                 | <b>教育活動外収入計</b> | <b>21</b>     | <b>422</b>    | <b>541</b>    | <b>533</b>    | <b>571</b>    |
|                  | 事支出活動部          | 借入金等利息          | 61            | 55            | 46            | 75            | 65            |
|                  |                 | その他の教育活動外支出     | 0             | 0             | 0             | 0             | 0             |
|                  |                 | <b>教育活動外支出計</b> | <b>61</b>     | <b>55</b>     | <b>46</b>     | <b>75</b>     | <b>65</b>     |
| <b>教育活動外収支差額</b> |                 | <b>△ 40</b>     | <b>367</b>    | <b>495</b>    | <b>458</b>    | <b>506</b>    |               |
| <b>経常収支差額</b>    |                 | <b>3,469</b>    | <b>2,877</b>  | <b>2,664</b>  | <b>2,283</b>  | <b>2,538</b>  |               |
| 特別収支             | 事収入活動部          | 資産売却差額          | 0             | 245           | 0             | 112           | 0             |
|                  |                 | その他の特別収入        | 171           | 386           | 228           | 282           | 1,757         |
|                  |                 | <b>特別収入計</b>    | <b>171</b>    | <b>631</b>    | <b>228</b>    | <b>394</b>    | <b>1,757</b>  |
|                  | 事支出活動部          | 資産処分差額          | 815           | 434           | 73            | 113           | 114           |
|                  |                 | その他の特別支出        | 0             | 0             | 220           | 23            | 648           |
|                  |                 | <b>特別支出計</b>    | <b>815</b>    | <b>434</b>    | <b>294</b>    | <b>135</b>    | <b>762</b>    |
| <b>特別収支差額</b>    |                 | <b>△ 644</b>    | <b>197</b>    | <b>△ 65</b>   | <b>259</b>    | <b>996</b>    |               |
| 基本金組入前当年度収支差額    |                 | 2,824           | 3,075         | 2,599         | 2,542         | 3,534         |               |
| 基本金組入額合計         |                 | △ 4,194         | △ 10          | △ 4,004       | △ 4,808       | △ 9,377       |               |
| 当年度収支差額          |                 | △ 1,370         | 3,065         | △ 1,405       | △ 2,266       | △ 5,843       |               |
| 前年度繰越収支差額        |                 | △ 9,006         | △ 10,376      | △ 6,711       | △ 8,116       | △ 10,382      |               |
| 基本金取崩額           |                 | 0               | 600           | 0             | 0             | 0             |               |
| 翌年度繰越収支差額        |                 | △ 10,376        | △ 6,711       | △ 8,116       | △ 10,382      | △ 16,225      |               |
| (参考)             |                 |                 |               |               |               |               |               |
| <b>事業活動収入計</b>   |                 | <b>21,710</b>   | <b>23,432</b> | <b>23,731</b> | <b>24,339</b> | <b>27,425</b> |               |
| <b>事業活動支出計</b>   |                 | <b>18,885</b>   | <b>20,357</b> | <b>21,132</b> | <b>21,797</b> | <b>23,891</b> |               |

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 【財務比率の経年比較】

(単位：%)

| 比率名・算出方法等   | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 状況分析等   |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| <b>事業活動収支差額比率</b><br>(自己資金の充実度を示す。高いほど望ましい)<br>基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入       | 13.0   | 13.1   | 11.0   | 10.4   | 12.9   | 本学は高い水準で推移している。引き続き教育研究活動の機動性を維持する。   |
| <b>基本金組入後収支比率</b><br>(低いほど将来の資金充実の目的に合う)<br>事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額)        | 107.8  | 86.9   | 107.1  | 111.6  | 132.4  | 物価上昇及び大型設備整備に伴う支出増により比率は高くなっている。大宮キャンパス整備事業が完了する2025年度までの間、基本金組入額は高どまりするため、比率は高い状態で推移する見込み。             |
| <b>学生生徒等納付金比率</b><br>(経営上、安定的に推移することが望ましい)<br>学生生徒等納付金／(教育活動収入計＋教育活動外収入計) | 75.6   | 73.8   | 71.4   | 70.2   | 67.3   | 推移は安定しており、他の財源(寄付金、補助金等)も合わせたより盤石な財政基盤の構築を目指す。2022年度より芝浦工大ビルの収入等が寄与し比率が低下。2025年度は経常費補助金の増加があり、一段と比率が低下。 |
| <b>人件費比率</b><br>(50%以下の低い水準での推移が望ましい)<br>人件費／(教育活動収入計＋教育活動外収入計)           | 41.5   | 39.3   | 39.5   | 38.7   | 36.8   | 国際化とダイバーシティを推進しながらも、引き続きこの水準を維持していくことが課題である。2022年度より芝浦工大ビルの収入等が寄与し比率は低下。2025年度は経常費補助金の増加があり、一段と比率が低下。   |
| <b>教育研究経費比率</b><br>(高いことが望ましい一方、収支均衡を図る必要あり)<br>教育研究経費／(教育活動収入計＋教育活動外収入計) | 35.0   | 39.4   | 40.1   | 41.9   | 44.1   | 物価の上昇や大型設備整備に伴う費用負担から上昇傾向にあり、高い水準で推移している。教育研究環境の充実や学生支援の維持に努める。   |
| <b>管理経費比率</b><br>(教育研究活動以外の経費の割合。低いことが望ましい)<br>管理経費／(教育活動収入計＋教育活動外収入計)    | 7.0    | 8.4    | 8.8    | 9.5    | 8.8    | 2022年度以降は物価上昇などにより経費率が上昇した。今後も管理経費の適正化と効率的運営を進めていく。   |
| <b>経常収支差額比率</b><br>(安定的にプラスであることが望ましい。)<br>経常収支差額／経常収入                    | 16.1   | 12.6   | 11.3   | 9.5    | 9.9    | 物価の上昇や新校舎整備に伴う各種支出の増加により比率は低下しているが、教育研究活動を安定的に継続できる財務基盤の確保に努めている。                                       |

## 資金収支計算書

### 【資金収支計算書の状況と経年比較】

2025年度の資金収支の規模は441億4千万円でした。学生生徒等納付金収入が前年度比4億6千万円増の172億8千万円、補助金収入が前年度比27億円増の56億9千万円と増加したことなどにより、前年度との比較では36億8千万円の規模拡大となりました。

支出面では、人件費支出が前年度比1億1千万円増の94億4千万円、教育研究経費支出が前年度比10億1千万円増の84億7千万円となるなど、教育活動に係る支出が増加しました。また、施設関係支出は大宮キャンパス整備を主因として前年度比46億8千万円増の89億6千万円となりました。

これらの結果、翌年度繰越支払資金は前年度比26億5千万円減の70億1千万円となりました。

(単位：百万円)

| 区 分              |               | 2021年度        | 2022年度        | 2023年度        | 2024年度        | 2025年度        |
|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 収<br>入<br>の<br>部 | 学生生徒等納付金収入    | 16,273        | 16,833        | 16,781        | 16,818        | 17,276        |
|                  | 手数料収入         | 1,016         | 994           | 999           | 1,061         | 1,267         |
|                  | 寄付金収入         | 313           | 422           | 413           | 410           | 388           |
|                  | 補助金収入         | 2,526         | 2,526         | 2,751         | 2,993         | 5,694         |
|                  | 資産売却収入        | 1             | 0             | 0             | 118           | 0             |
|                  | 付随事業・収益事業収入   | 809           | 1,225         | 1,684         | 1,816         | 1,718         |
|                  | 受取利息・配当金収入    | 21            | 18            | 28            | 28            | 129           |
|                  | 雑収入           | 653           | 910           | 908           | 890           | 760           |
|                  | 借入金等収入        | 5,000         | 0             | 6,000         | 0             | 0             |
|                  | 前受金収入         | 3,295         | 3,068         | 3,143         | 3,464         | 3,435         |
|                  | その他の収入        | 11,298        | 6,539         | 3,955         | 4,273         | 9,840         |
|                  | 資金収入調整勘定      | △ 3,612       | △ 4,168       | △ 4,263       | △ 4,321       | △ 6,021       |
|                  | 前年度繰越支払資金     | 11,185        | 10,759        | 10,016        | 12,910        | 9,658         |
|                  | <b>収入の部合計</b> | <b>48,778</b> | <b>39,125</b> | <b>42,415</b> | <b>40,460</b> | <b>44,142</b> |
| 支<br>出<br>の<br>部 | 人件費支出         | 8,977         | 8,954         | 9,284         | 9,335         | 9,443         |
|                  | 教育研究経費支出      | 5,478         | 6,695         | 6,835         | 7,464         | 8,469         |
|                  | 管理経費支出        | 1,399         | 1,786         | 1,899         | 2,094         | 2,079         |
|                  | 借入金等利息支出      | 61            | 55            | 46            | 75            | 65            |
|                  | 借入金等返済支出      | 611           | 611           | 1,038         | 1,236         | 736           |
|                  | 施設関係支出        | 15,023        | 4,463         | 2,667         | 4,281         | 8,964         |
|                  | 設備関係支出        | 412           | 937           | 641           | 780           | 1,987         |
|                  | 資産運用支出        | 6,012         | 5,580         | 6,452         | 5,276         | 5,402         |
|                  | その他の支出        | 358           | 375           | 1,143         | 502           | 273           |
|                  | 資金支出調整勘定      | △ 312         | △ 347         | △ 500         | △ 241         | △ 286         |
|                  | 翌年度繰越支払資金     | 10,759        | 10,016        | 12,910        | 9,658         | 7,010         |
| <b>支出の部合計</b>    | <b>48,778</b> | <b>39,125</b> | <b>42,415</b> | <b>40,460</b> | <b>44,142</b> |               |

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 【活動区分資金収支計算書の状況と経年比較】

活動区分資金収支の状況については、教育活動による資金収支において、教育活動資金収支差額は前年度比19億8千万円減の32億2千万円となりました。

施設設備等活動による資金収支については、大宮キャンパス整備を主因として前年度に引き続き大幅な支出超過となりましたが、資金収支差額は前年度比6億9千万円改善し、60億6千万円の支出超過となりました。

また、その他の活動による資金収支は、収支差額が2億円の支出超過となり、前年度と比較して改善しました。

(単位：百万円)

| 科 目                          |                      | 2021年度         | 2022年度         | 2023年度         | 2024年度         | 2025年度         |
|------------------------------|----------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| よる資金収支                       | 教育活動に                |                |                |                |                |                |
|                              | 教育活動資金収入計            | 21,512         | 22,365         | 22,946         | 23,402         | 25,084         |
|                              | 教育活動資金支出計            | 15,854         | 17,435         | 18,018         | 18,879         | 19,991         |
|                              | 差引                   | 5,658          | 4,930          | 4,928          | 4,522          | 5,093          |
|                              | 調整勘定等                | 174            | △ 312          | 407            | 671            | △ 1,878        |
|                              | <b>教育活動資金収支差額</b>    | <b>5,832</b>   | <b>4,619</b>   | <b>5,336</b>   | <b>5,194</b>   | <b>3,215</b>   |
| よる資金収支                       | 施設設備等活動に             |                |                |                |                |                |
|                              | 施設設備等活動資金収入計         | 10,002         | 4,326          | 1,893          | 1,519          | 8,033          |
|                              | 施設設備等活動資金支出計         | 19,630         | 8,961          | 7,338          | 8,255          | 14,112         |
|                              | 差引                   | △ 9,629        | △ 4,635        | △ 5,446        | △ 6,736        | △ 6,080        |
|                              | 調整勘定等                | △ 30           | △ 4            | △ 0            | △ 13           | 15             |
|                              | <b>施設設備等活動資金収支差額</b> | <b>△ 9,659</b> | <b>△ 4,639</b> | <b>△ 5,446</b> | <b>△ 6,749</b> | <b>△ 6,064</b> |
| 小計(教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額) |                      | △ 3,827        | △ 20           | △ 110          | △ 1,555        | △ 2,849        |
| よる資金収支                       | その他の活動に              |                |                |                |                |                |
|                              | その他の活動資金収入計          | 5,961          | 2,361          | 7,830          | 2,291          | 2,783          |
|                              | その他の活動資金支出計          | 2,561          | 2,769          | 4,313          | 3,409          | 3,044          |
|                              | 差引                   | 3,400          | △ 407          | 3,517          | △ 1,119        | △ 260          |
|                              | 調整勘定等                | △ 0            | △ 315          | △ 512          | △ 578          | 462            |
|                              | <b>その他の活動資金収支差額</b>  | <b>3,400</b>   | <b>△ 723</b>   | <b>3,004</b>   | <b>△ 1,697</b> | <b>201</b>     |
| 支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)    |                      | △ 427          | △ 743          | 2,894          | △ 3,252        | △ 2,648        |
| 前年度繰越支払資金                    |                      | 11,185         | 10,759         | 10,016         | 12,910         | 9,658          |
| 翌年度繰越支払資金                    |                      | 10,759         | 10,016         | 12,910         | 9,658          | 7,010          |

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 【財務比率の経年比較】

(単位：%)

| 比率名・算出方法等   | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 状況分析等   |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| 教育活動資金収支差額比率<br>(教育活動の資金創出力を示す)<br>教育活動資金収支差額/教育活動<br>資金収入計 | 27.1   | 20.7   | 23.3   | 22.2   | 12.8   | 2021年度から2024年度にかけては20%前後で安定的に推移している。2025年度は教育活動支出の増加に加え、大学・高専機能強化支援事業補助金の未収入金計上に伴う調整勘定等のマイナスにより比率が低下した。一方で黒字を維持しており、教育活動の資金創出力は確保されている。 |

## その他

### 資産運用の状況

本学では「資金運用に関する取扱基準」を定め、元本保証に近い安全性重視の基本方針のもとで、資産運用を実施しております。また、個別具体的な商品や金額の決定にあたっては、投資期間や投資銘柄を分散しリスクの低減に努めています。

2025年度は日本国債を中心とした資産運用を実施し、利金等収入として1億3千万円を計上しました（前年度比+1億円）。

#### 【運用中の有価証券の内訳】

（単位：億円）

| 保有商品 | 簿 価  | 時 価  | 含み損益  |
|------|------|------|-------|
| 債 券  | 52.8 | 50.1 | △ 2.7 |
| 合 計  | 52.8 | 50.1 | △ 2.7 |

本学が保有する有価証券の簿価と時価は上記のとおりです。長期金利の上昇を受けて時価評価が下がり、合計で△2億7千万円の含み損が発生しておりますが、保有商品は全て債券で満期保有が前提であり、満期時には簿価で償還される予定です。また、債券の発行体の格付はA格以上であり、安全性が確保されています。

### 学校債の状況

なし

### 寄付金の状況

（単位：百万円）

| 区分          | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 特別寄付金       | 313    | 422    | 413    | 410    | 388    |
| 周年記念事業寄付    | 87     | 138    | 78     | 65     | 72     |
| 研究奨励寄付      | 75     | 93     | 118    | 153    | 119    |
| 上記以外の用途特定寄付 | 150    | 191    | 217    | 192    | 197    |
| 現物寄付        | 99     | 259    | 165    | 204    | 195    |
| 計           | 411    | 681    | 577    | 614    | 582    |

（注）表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 補助金の状況

(単位：百万円)

| 区分        | 主な補助金の内容   | 金額           |
|-----------|--|--------------|
| 国庫補助金     | 私立大学等経常費補助金<br>授業料等減免費交付金<br>さいたま市脱炭素移行共創推進交付金<br>住宅・建築物需給一体型等省エネルギー投資推進事業費（ZEB補助金）<br>他 | 4,529        |
| 東京都補助金    | 私立学校経常費補助金<br>高等学校デジタル人材育成支援事業費補助金<br>授業料軽減助成金<br>ICT教育環境整備費助成金<br>他                     | 592          |
| 千葉県補助金    | 千葉県私立学校経常費補助金<br>千葉県私立学校等授業料減免事業<br>他  | 570          |
| 埼玉県補助金    | さいたま市結核予防費補助金  | 1            |
| その他の補助金   | 福島県教育旅行復興事業補助金<br>他  | 0            |
| <b>合計</b> |  | <b>5,694</b> |

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

## 収益事業の状況

本学は、私立学校法に基づき、2022年10月より収益事業として不動産賃貸事業を実施しています。当該収益事業については、学校法人会計とは区分し、特別の会計(企業会計)として経理しています。

2025年度においては、当該収益事業から学校会計へ4億4千万円を繰り入れました。収益事業から得られる収益は、教育研究活動を支える財源として学校会計に充当しており、本法人にとって安定的な収入源の一つとなっています。

### 【貸借対照表の経年比較】

(単位：百万円)

| 科 目             | 2022年度       | 2023年度       | 2024年度       | 2025年度       |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 流動資産            | 1,301        | 1,691        | 1,834        | 1,576        |
| 固定資産            | 3,438        | 3,318        | 3,179        | 3,042        |
| <b>資産合計</b>     | <b>4,739</b> | <b>5,009</b> | <b>5,013</b> | <b>4,618</b> |
| 流動負債            | 315          | 585          | 588          | 194          |
| 固定負債            | 794          | 794          | 794          | 794          |
| <b>負債合計</b>     | <b>1,108</b> | <b>1,378</b> | <b>1,382</b> | <b>987</b>   |
| <b>純資産合計</b>    | <b>3,631</b> | <b>3,631</b> | <b>3,631</b> | <b>3,631</b> |
| <b>負債・純資産合計</b> | <b>4,739</b> | <b>5,009</b> | <b>5,013</b> | <b>4,618</b> |

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

### 【損益計算書の経年比較】

(単位：百万円)

| 科 目              | 2022年度   | 2023年度   | 2024年度   | 2025年度   |
|------------------|----------|----------|----------|----------|
| 営業収益             | 407      | 815      | 818      | 818      |
| 営業費用             | 92       | 299      | 304      | 308      |
| 営業利益             | 315      | 516      | 514      | 510      |
| 営業外収益            | 0        | 0        | 0        | 9        |
| 経常利益             | 315      | 516      | 514      | 518      |
| 特別損失             | 0        | 2        | 0        | 0        |
| 学校会計繰入金支出        | 315      | 513      | 505      | 442      |
| 税引前当期純利益         | 0        | 0        | 9        | 76       |
| 法人税、住民税及び事業税     | 0        | 0        | 9        | 76       |
| <b>当 期 純 利 益</b> | <b>0</b> | <b>0</b> | <b>0</b> | <b>0</b> |

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

### 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

財務比率の示すとおり、本学の経営状況は概ね安定して推移しているといえます。一方で、諸物価の上昇や教育研究活動の充実、施設設備整備の推進に伴い支出が増加しており、収支面では一定の厳しさも見られる状況となっています。大学を取り巻く厳しい経営環境のなかでは、教育研究活動のための環境整備とグローバル化などの戦略事業に対する投資を執行しつつ、将来の投資に備えた蓄えの充実を両立させていくことが必要です。こうした環境のもと、持続的な財務運営を確保していくことが求められます。

そのためには、毎年継続的な教育活動収支差額及び基本金組入前当年度収支差額の確保に努めるとともに、減価償却累計額等の要積立額に対して十分な特定資産の蓄積を図ることが重要となります。本学では、定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分において正常値とされるA3区分以上を継続的に達成することを目標とし、その実現のため、収入面では学生生徒等納付金の安定的確保、外部資金の獲得強化、寄付金収入の増加に向けた対応策の推進を図ります。さらに2025年度からは、収入の増加を見込み、安全性を重視した資産運用を開始しました。支出面では、教育研究活動の質の向上に資する投資を執行しつつ、その効果を十分に検証し、経費の適正化を図ることで、収支改善に向けた取組を継続していきます。

---

## IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制 (内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

---

### 関係する決議の概要

---

本法人は2025年3月5日、第24－24回理事会において、「理事の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制その他学校法人の業務の適正を確保するために必要なものとして文部科学省令で定める体制の整備」に関し、学校法人芝浦工業大学内部統制システム整備基本方針を決定した。

### 体制整備及び運用状況の概要

---

2025年4月1日に制定された学校法人芝浦工業大学内部統制システム整備基本方針は、①経営に関する管理体制、②リスク管理に関する体制、③コンプライアンスに関する管理体制、④監査環境の整備(監事の監査業務の適正性を確保するための体制)の4つで構成される。本方針に従って、監査室が定期的に遵守状況を監査する。

## V. 附属明細書

該当事項なし